

第5章 調査対象施設とその整備の必要性

第5章 調査対象施設とその整備の必要性

要請のあった3施設、Vaipouli College, Avele College, Savaii Library, の整備計画について、その背景と広義な意味での必要性については前章までにのべた。この章では、この3施設についての概略説明をおこなったのち、要請内容の施設内における具体的な必要性を明らかにする。

現在西サモアにある公立の Senior Secondary School 3校の内、Samoan College は、すでに、制度上も施設面でも整備が進んでおり、一方今回の要請対象の2校は、制度上の整備がたちおけている。

Samoan College は普通科 (Academic Course) 校として、概して管理職養成の任を担っているが、同校だけでは現在西サモアの必要としているマンパワーの要求をみたすことができない。農業教育、職業教育に重点をおいた、Vaipouli, Avele の2校を制度上本格的な Senior Secondary School へむけて向上をはかり、多量に必要とされている実務レベルのマンパワー開発の任を負わしめなければならない。

5-1 Vaipouli College

1922年公立の Primary School として設立されたものが前身となり、1960年の改革で Senior Secondary School となった。1973年 Form III ~ Upper V までを修めることができる4年制 College へと発展し、現在の形態をととのえる様になった。当初は男子校として発足したが、現在では、男女共学である。

学生数は173人(1979年)、186人(1980年)である。

現時点での教科目は、英語、数学、科学、地理、社会科学、サモア学、美術工芸、木工、家庭経営学 (Home Economics)、である。

教員数は校長を含めて14名である。うち4名は外国人で、ニュージーランド及びアメリカからの政府雇用教師が各1名ずつ、及び Peace Corps が2名である。

立地的には、発展のおくれた Savaii 島にあり、港及び空港のある島の中心地 Salelologa から車で1時間余で Fagamalo 村に達し、そこからすこし山の方に登った所に位置する。敷地面積は284エーカー(115ha)であり、広大な森林の中にある。その中に農園を持っていて、果樹栽培、牧畜、養豚、野菜栽培をおこなっている。この試みは順調に進展しており、農業立国という目標に明るい見とおしを与えている。

学生は Savaii 全島から集まり、遠隔地からの男子生徒は、Fagamalo 村に下宿し、女子生徒の為には寮がある。

将来の人口増に対して、分散政策をとり、農業を改善して、Savaii島の開発を進めることは、政治の基本政策である。その一環として、Upolu島に集中している高等教育の機会をこの地においても同様に可能にする必要がある。そのために教育省としては、Vaipouli Collegeの拡張と質的向上をはかり、普通教科、職業教科共に完備して、現在 Samoan Collegeのみでおこなわれている Form VIIの教程までひき上げ、名実共に Senior Secondary School とする方針を掲げている。そのために同校に職業教科としては新たに、商業、大工、家庭科の設置が必要とされている。

これらの目的のために、新たな施設の新設、既存の施設の拡張、及び古くなった既存施設の新築の必要性にせまられている。これらの具体的項目は、資機材面での必要項目を含めてリストアップすると下記の通りである。これらのリストは調査時点及びそれ以前の要請等のすべての資料に記載されている項目を、順不同にリストアップしたものである。

- (1) 生物学実験室 新設1室
- (2) 普通教室 新設2室
- (3) 手工芸兼家庭科教室 新設1室
(manual art / home science)
- (4) 食堂及び厨房の拡張(定員増の為)
- (5) 寮の一部にリクレーションホールを増築する。
- (6) スクールバス (定員35人乗程度)
- (7) 発電機 1基54 KVA 程度
- (8) 木工教室 新設1室(既存の木工教室は老朽化している。)
- (9) 商業科実習用タイプライター 20台
- (10) 牧畜実習用牛 50頭
- (11) 実習牧場、養豚場のかこいこみ用有刺鉄線
- (12) 上記以外の農業実習関連資機材及び施設 (脚註参照)
- (13) 以上の新設教室用の家具及び教材備品(但しこの項目は(9)をのぞいては援助要請なし)

以上のうち、(5)のリクレーションホールについては、この学校の立地が山の中にあるため、寮としての娯楽施設の要求があがっている。(6)のスクールバスについては、立地上輸送機関はどうしても必要であり、現在トラックでおこなわれている状態である。(7)の発電機は、この地域には送電施設がなく、技術的に常用自家発電施設として2基必要であるが、現在は1基廃品となり、不便を感じている。又このため養鶏の計画が途中で中止されたいきさつがある。(9)のタイプライターは商業科新設のための校長の強い要望である。

註： (12)項について…現地での協議の過程で実習農園のための諸々の資機材、施設及び家畜等の必要性についてカウンタパートより説明があり援助要請があった。



写真6 Vaipouli Collegeの現況

当校の拡充のための必要項目は上記の通りであるが、調査団としては、無償援助協力の枠組があり、カウンターパートと協議をかさねた結果、上記項目の、(1)、(2)のうちの1教室（これは商業科実習室としても使用される）、(3)、(6)、(7)、(8)、(9)をミニッツに記載することに合意した。

5-2 Avele College

当校は1924年、首都 Apia の郊外に、Primary School として設立されたのが前身である。1959年 Agricultural College として改革され Form I から III の教程を教えた。その後1960年及び1961年の改革をへて発展し、1970年の改革において再び教育省管轄に返還された。と同時に農業専門校から、農業科を単なる一科目とした普通校として生まれかわり、又 Form Upper V の教程が加えられた。1978年 Form VI まで引き上げられ現在にいたっている。

当校は男子校であり、学生数は1980年現在439名である。その内訳は

Form III	3クラス	×	36名	=	108名
Form IV	3クラス	×	36名	=	108名
Form V(Lower)	3クラス	×	36名	=	108名
Form V(Upper)	3クラス	×	30名	=	90名
Form VI	1クラス	×	25名	=	25名
Total	13クラス			=	439名

教員数は校長を含めて25名である（校長は Samoan ）、うち14名はサモア人で、11名は外国国籍である。その内訳はニュージーランド6名（内訳、政府雇用3名、VSA 2名、学校雇用1名）、オーストラリア1名（学校雇用）、ケニア1名（学校雇用）、アメリカ3名（Peace Corps 1名、学校雇用2名）、である。

学校の立地は、Apia 郊外、山手に車で15分程度登った所にある。市内から徒歩ではかなりの距離である。丘の傾斜地にあり、建物も階段状をなしている。利用出来る敷地は狭い。その上、農業省から移管された時点で、隣接する農園は、そのまま農業省の管理下にとどまったために、その敷地をめぐる係争中である。

寮施設は、平家4棟に160名～200名収容している。超過密の状態である。

この学校の特色は、スポーツのさかんなことであり、知育と同様な比重で、体育を通じて、人間形成をめざすところにある。ラグビーにおいては1979年の Secondary School の対校試合で、7クラス中5クラスの分野で優勝した程である。



写真7 Avele College
Sports Field の現況

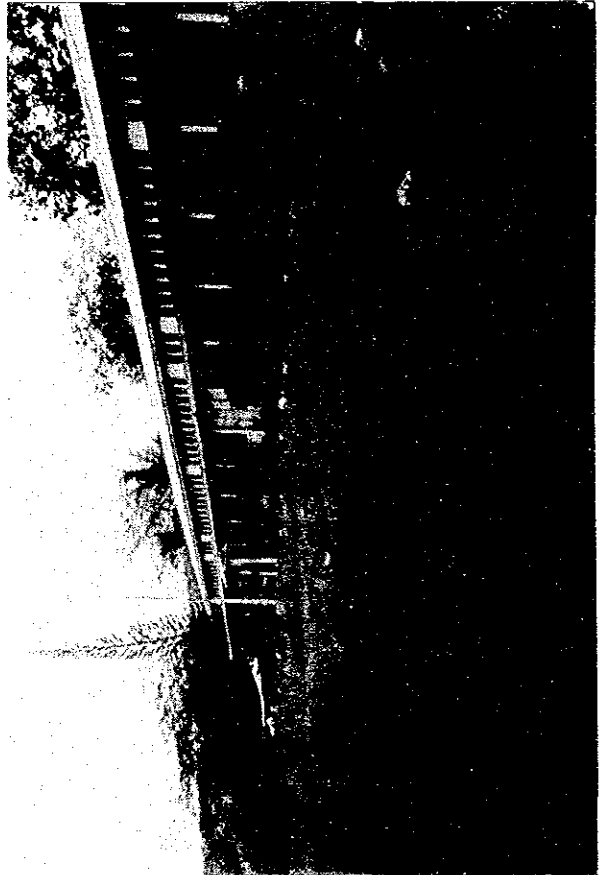


写真17 Avele College の現況

首都 Apia に立地する、Avele College の改革の必要性は、Samoa College の役割との補完関係にある。後者は純粋な普通科校として、前者は、農業教育、職業教育をも含めた、普通科校として、実務家レベルの量的必要性にこたえるために、実質的な Senior Secondary School への昇格をめざしている。一方この面での女子教育の必要性にかんがみ、Avele を男女共学校とする必要性もあり、その方向への方針がうち出されている。それ故施設面での改善は、Vaipouli におけると同様に、この学校改革のための必要性としてとらえるべきものである。そのための必要な施設面で改善項目は多岐にわたり、調査団としては関知しえない問題もあり（実習農園及び敷地の拡張の問題）、ここには、数回にわたっての要請書に記載された項目のみを列記する。

- (1) 農業科学実験棟 生物実験室、映写室各 1 室及びその準備室
- (2) 新運動場及び便所棟
- (3) 寮 2 階建 1 棟 80 人収容
- (4) 牧畜、養鶏、養豚に関する資機材
- (5) 食堂及び厨房の拡張、調理人 2 人の住居、ウム料理調理場及び倉庫を含む
- (6) 診察室、休憩室 1 棟
- (7) 既存寮室の改修
- (8) 一般教室 5 室、及びその家具
- (9) スクールバス 1 台（定員 35 人乗程度）

以上が要請書にあらわれた項目であるが、個々の項目について註釈をくわえると、

- (1) の実験室については、現在 25 名定員の実験室があるが、36 人編制のクラスとなったため、小さくなったことと、本来実験室が 2 室必要な事情がある。又映写施設をそなえた室が在来の校舎にないため、その新設が必要とされている。
- (2) 運動場新設について、現在のグラウンドは、傾斜地にあり、かなりな勾配がついている。端から端までの落差は 10 M 程度におよんでいて、満足なスポーツが出来る状況ではない。そのため予定地に新設すべく着工したが、予算不足のために途中で中断したいきさつがあった。今回の要請はそれを仕上げることである。それによって現在のグラウンドを校舎予定地とすることができ、敷地不足の解消にも役立って、当校にとっては要のプロジェクトである。
- (3) 現在の寮は、学生が自力で建設したいきさつからもうかがえる様に、すでに過密である上に、入寮希望者すべてをまかなえず、入寮できない遠隔地からの学生に経済負担をしいているのみならず、入学をあきらめる原因ともなっている。学生数の増加にともなうなお一層の増設が必要である。
- (4) 養豚については、メンテナンス コストである。養鶏は、新設の鶏舎と鶏及び飼料。

牧畜は計画があるが敷地はない。

(5) 食堂関係は、定員増にともなう拡張である。

(8) 一般教室5室については、80年6月17日付の要請書には記載があるが、それ以後の要請から消えている項目である。将来の必要性と思われる。

(9) スクールバス、市内バスは本数が少ない上に、おうおうにして不定期であり、学生の遅刻の原因となっている。これが授業進歩のさまたげとまでなっている。ある学生の成績をつけるにあたっては交通事情を勘案する程である。

当校の拡充のための必要項目は上記の通りであるが、Vaipouliの場合と同様な過程をへて、ミニッツには上記(1)、(2)、(3)、(9)を記載することに合意した。

5-3 Savaii Library at Salelologa

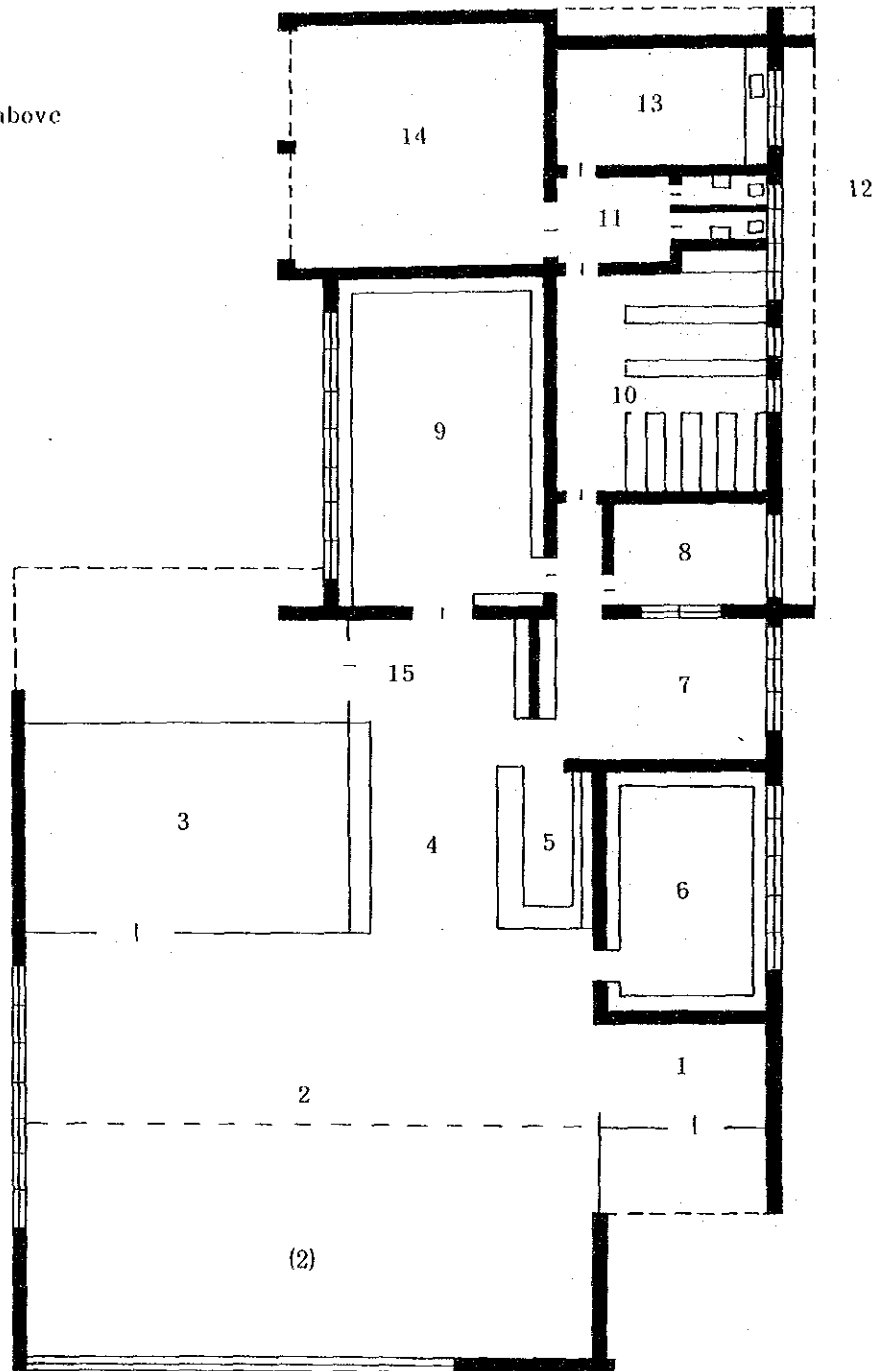
Upolu 島にある首都 Apia には公立図書館として、Nelson 図書館がある。西サモアの唯一の公立一般図書館である。蔵書数は45,000冊程で、大部分は開架式である。一般閲覧室とパシフィックルームと称する重要文献閲覧室がある。映画フィルムのコレクションも持っている。

この図書館は Wesley という書店の一隅に設置されていたものが前身となり、実業家であった故 Nelson 氏の遺産をもとにして、政府及びニュージーランドの援助のもとに建設され、現在の姿をとるようになった。

全国の各地に対する図書館サービスは、ブックモービルにて、学校を拠点にしておこなわれるが、全国を一周するのに6週間かかる。すなわち、地方にあつては6週間に1日、年に8日程度の恩恵によくするのみである。但し現在はそのモービル(USAの援助)は廃品となり稼動していない。日本からの援助が決定されており、持ちのぞまれている。

☒ 5 - 1 Nelson Memorial Library, Floor Plan

- 1. Main Entrance Lobby
- 2. Main Reading Area
- (2) There is Reading Area above
- 3. Reading Terrace
- 4. Foyer
- 5. Desk
- 6. Audio - Visual Room
- 7. Work Room
- 8. Librarian's Room
- 9. Pacific Room
- 10. Stook & Archives
- 11. Lobby
- 12. W. C.
- 13. Staff Room
- 14. Garage
- 15. Entrance



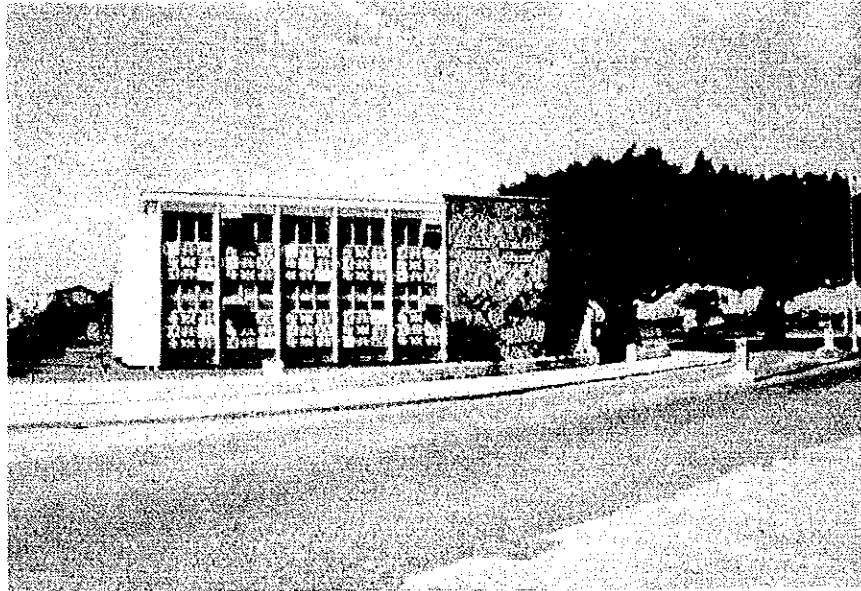


写真8 Nelson Library

今回の要請の Savaii Library は、この図書館のブランチを Savaii 島の Salelologa に建設しようとするものである。Savaii 島は西サモア 16 万の人口のうちの約 1/4 の人口を擁する、首都のある Upolu 島よりも面積の大きな島であるが、開発がおくれており近代化のあらゆる面において、Upolu 島とかくだんの差がある。これに対するインフラ整備、文化施設の建設は、前章でのべた Rural Development Programme とあいまって、人口の地方分散、定着化政策の重要な柱となっている。

予定地の Salelologa は Savaii 島の玄関口にあたる集落で、港及びローカル空港がある。敷地は港から Salelologa の集落に通ずる、海ぞいの道路に面し、建設中のマーケット及び我国からの援助協力による、フッシュャリー冷凍庫に隣接する。この同一敷地に、教育省の出先事務所をも開設し、図書館とあいまって、教育関係のセンターとして、Savaii の各地域に対して教育、文化サービスの効率化をはかる構想となっている。

図書館の構想は、当初は 15,000 冊程度の蔵書を予定し、児童閲覧室、一般成人閲覧室、重要文献閲覧室を設置、おおむね開架式とする、巡回図書館用書庫及び車庫を設置する、映写室を設置し、これを地域の集会施設として兼用する、というものである。

この図書館が建設されることは、今まで文化施設の恩恵に浴さなかった、Savaii 島にとって画期的なことであり、Savaii 地方の学校においてその図書サービスの面で格段の向上が期待できる。又一方 Vaipouli College の質的向上を側面から援助する意味においても重要な機能をそなえている。

第6章 基本設計

第 6 章 基本設計

6-1 建築設計上から見た風土等

Upolu, Savaii 両島とも火山島であり、中央部が山地で、傾斜地をへて、海岸線にいたって平地となる。集落は、この海岸線にそった平地に点在する。地質は、熔岩の上に火山灰(日本でいう関東ローム)がごくうすく堆積したものである。熔岩が露出している所も多い。島の周囲は珊瑚礁にかこまれ、天然の防波堤になっていて、海は静かである。

気候：赤道直下の熱帯であるが、海洋性気候のため、少し風があると、想像以上に涼しい。湿度は多く、年間雨量は 2880 mm にたつする。12月～3月が雨季で、4月及び10月、11月の中間期をはさんで5月～9月が乾季である。(資料編 32 参照)

熱帯様式の建築：伝統的な建築様式は熱帯性気候に適応した Fale と称する様式である。屋根と柱のみの、いわゆるピロテー状の建物で、遮熱と通風を主眼としたものである。現在の工法においても、設計上の最重点は遮熱と通風にある。



写真9 Fale

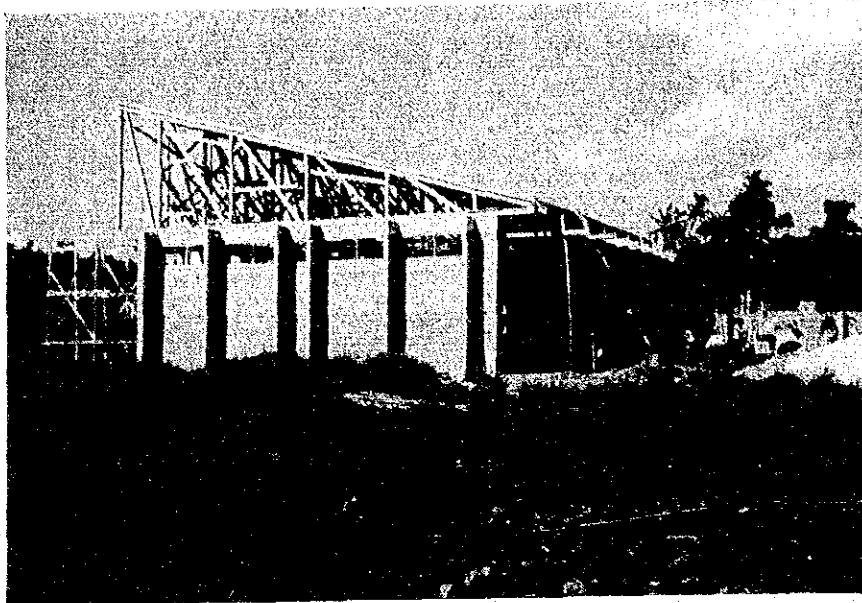


写真10 現在の工法例

地震：サモア諸島はトンガ海溝の北端に近く、ここが地震の巣となっていて、1917年サモア南洋上200 Kmの地点で、M 8.3の巨大地震が記録された。小さな地震は常時あり、M7を超えるものもめずらしくない。Apia 気象台では、ニュージーランド規準 ZONE(A)を、適用すべしとの報告を出している。

ハリケーン：記録としては、1966年瞬間最大風速42M/秒、1968年40M/秒がある。通常の間最大風速の記録は20～26M/秒である。上記のハリケーンの時には、かなりの被害が出たとのことであった。屋根の構造と工法に十分な考慮が必要であり、庇の強度に意をもちいる必要がある。

塩害：敷地が海岸に立地する場合は特に、高温多湿の気候ともあいまって、金属材料に対する塩害を考慮しなければならない。

木材：チーク材に似た堅い木材が何種類か産出し、建築材として使用されている。これらの木材は非常に堅く、強度は強い。が一方、反りの欠点があるが現地では意にかいさないで使用している。ボアーと称する虫害があるが、現地で薬液処理の方法がある。現地における一般的な建築工法は、この木材を使用しての、木造工法と、下記のコンクリートブロックを使用した工法の二種類である。

骨材：粗骨材は溶岩砕石である。細骨材は珊瑚礁の砕けた砂を採取し、溶岩砕石による砂とを粒度を調整して、混合する。

コンクリートブロック：Apia 市内にブロック工場があり、上記の骨材と輸入セメントにて製造されている。Savaii 島にはフェリーにて輸送される。

建築技術：現在 Apia 市内において、5階建の鉄筋コンクリート造りの建物が建設中であり、技術者は外国人の力をかりなければならないが、職方の施工能力としては、仕上がりの良さを問わなければ、あまり心配はいらないと思われる。

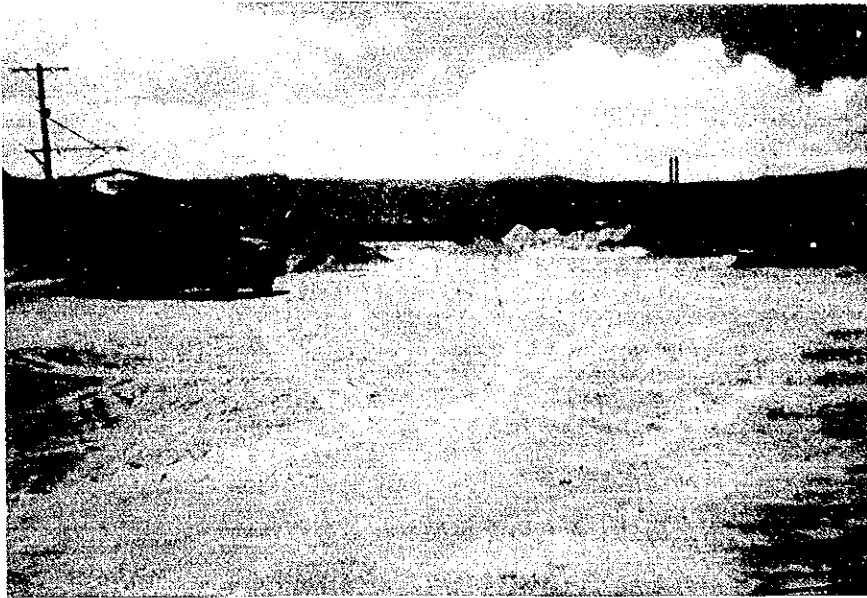


写真11 骨材採取場

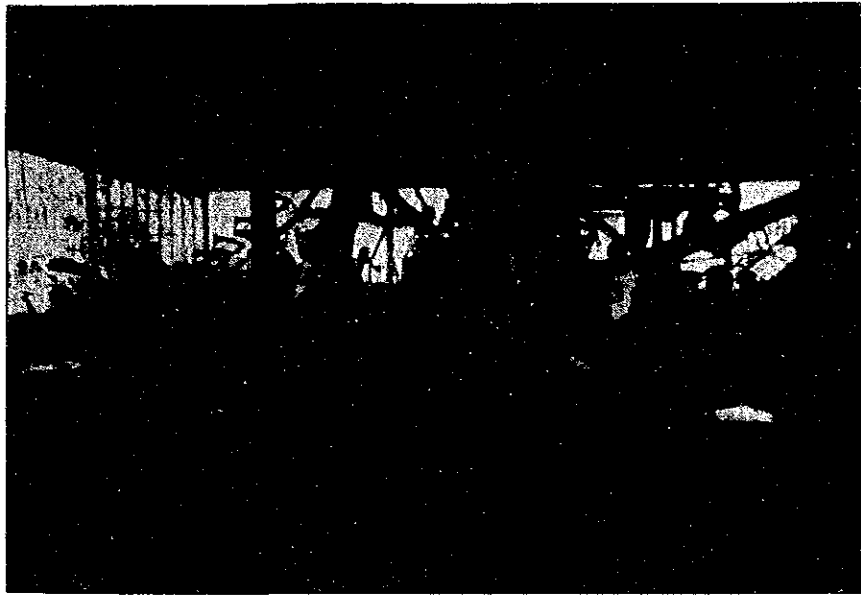


写真12 ブロック工場内部

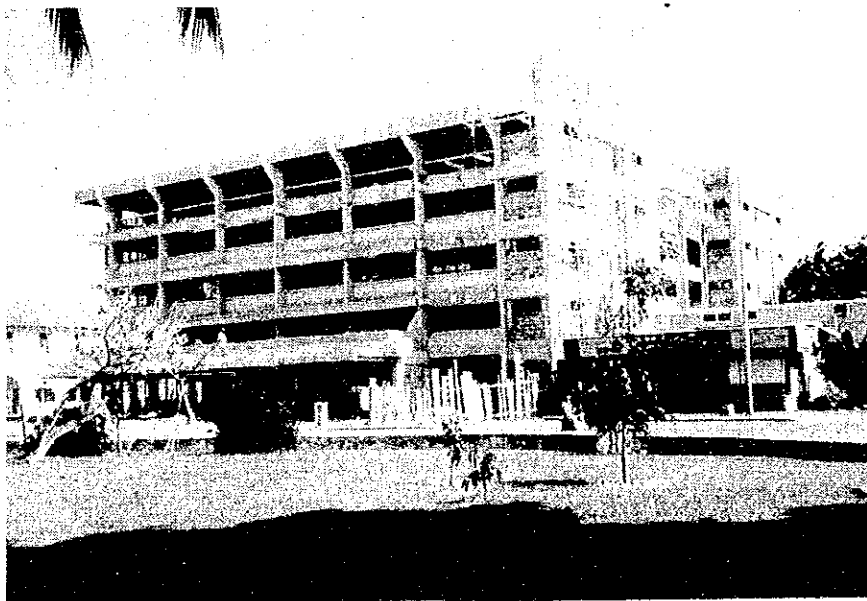


写真13 APIA市内 5階建の建物

6-2 設計の基本方針

西サモアは過去5年間の全開発支出に対して、その60%以上を外国からの援助協力にたよっている状態である。そのために、自力による開発でない所からくる、西サモアの将来にとって不都合な様々な状況が起きてきている。DPIIの計画書にもこれについての指摘がなされており、建築計画に関する事柄は次の様なものである。

外国人技術者による計画は、おうおうにして、その国の高度な技術によって計画され、又西サモアの現況が要求する水準以上のものを援助される等の傾向がある。そのために

- (1) 建設、維持、保守にあたっての外国技術者への依存。
- (2) 維持、保守に対する輸入材及び輸入資源の必要性が多くなり、外貨収支を圧迫する。
- (3) 建設材料は輸入材が多くなり、ローカル資源の開発、生産性の向上を、反対に阻害する。
- (4) これらは、外国の援助協力への依存度を一層深めていく結果におわる。(資料編31参照)

建設計画の基本方針を立案するにあたっては、これらの弊害を勘案することが必要である。又調査を開始時点での、小山田ニュージーランド大使からの訓示内容をも受けて、ここに設計にあたっての基本方針を下記の如く設定する。

- (1) 敷地の有効利用をはかり、将来の増改築に対して十分配慮する。
- (2) 強固かつ耐用年数の永い建物を設計することを第一義とし、不必要な意匠的グレードアップはさける。
- (3) 現地資材を多用し、現地工法を尊重し、合せて将来のメンテナンスを容易ならしめる。
- (4) ランニングコストに対する現地事情を考慮する。
- (5) 風土に適した建物とする。
- (6) 現地の生活様式を尊重し、日本の生活様式にかかわるものを不注意にもちこまない。

6-3 敷地条件

6-3-1 Vaipouli College

敷地はSavaii島北側海岸の景勝地Fagamaloの集落より南へ約1km登ったMt. Matavanuの裾野に位置し、標高60mの台地状の部分を主とした一帯である。進入路は巾員約6mの道路で舗装はされていない。又勾配があるため雨後のぬかるみに対する対策を考慮する必要がある。プランテーションを含む全敷地は起伏があるが、今回建物を建設する予定地は在来校舎周辺の北隅で、東北側にゆるやかにさがった傾斜をもつ。この台地状の概ね平坦地の部分には在来校舎の他、広さ約20,000m²の運動場を囲むようにして学生寮と学校職員の住宅、畜舎、発電機棟が配置され、その周囲はココナッツヤシ、パンの木等その他の雑木林でかこまれており、一般の民家はない。

インフラストラクチャーは、電気については現在キャンパス専用として65KvA 水冷型発電機を1台使用中で主として学生寮及び職員住宅に夜間のみ供給を行なっている。本計画建物については図6-1示すように約100mの位置にある電柱より分岐して引込む。

給水は図6-1に示す位置に容量20t、揚程6mの給水塔がありこれより給水する。

地盤の状況は図6-1に示す試掘地点で約500mm厚の腐蝕土の下はローム層となっている。厚さは不明であるがローム層の下は火山性の岩石と予想される。

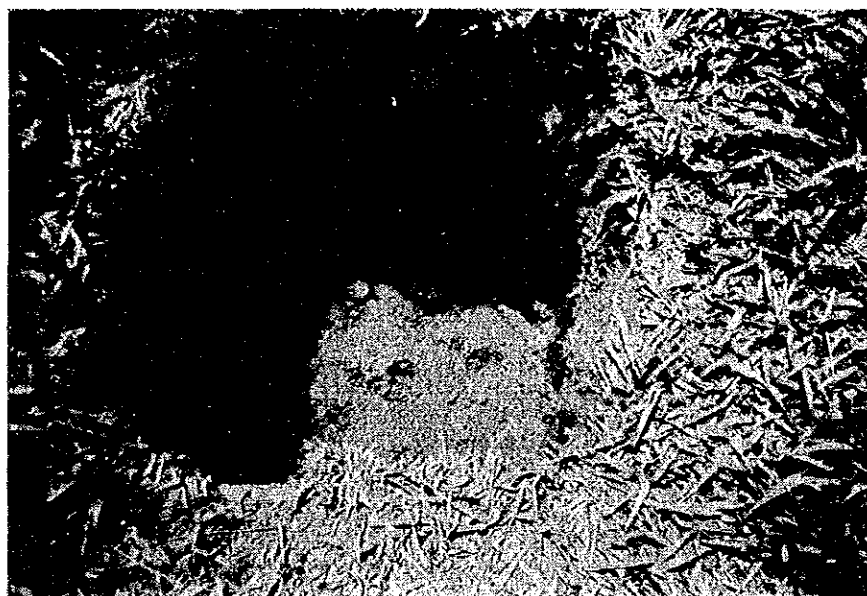
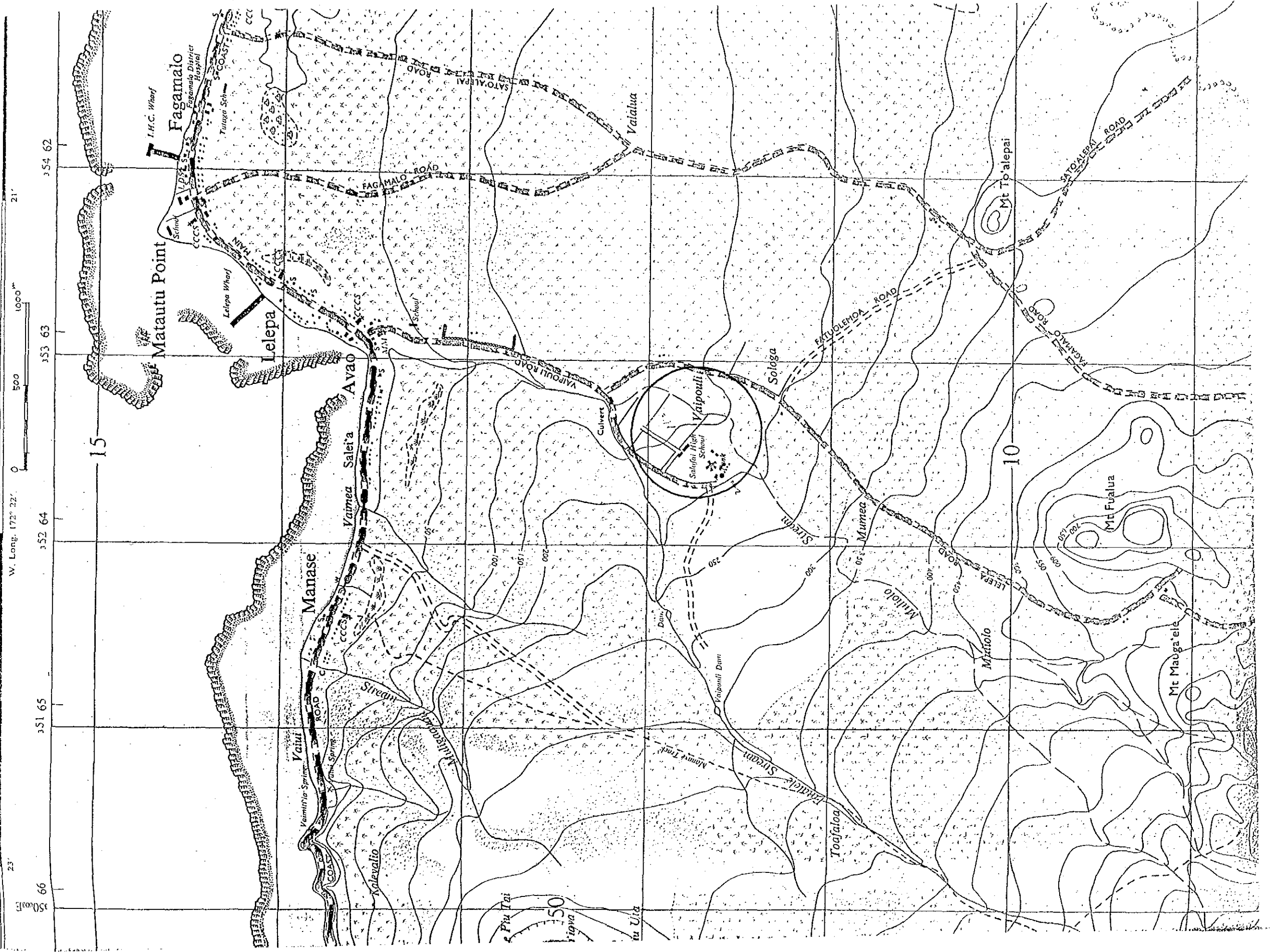


写真14 Vaipouli College
Test Pit



W. Long. 172° 22' 0" 21'

1000m

500

0

15

354 62

353 63

352 64

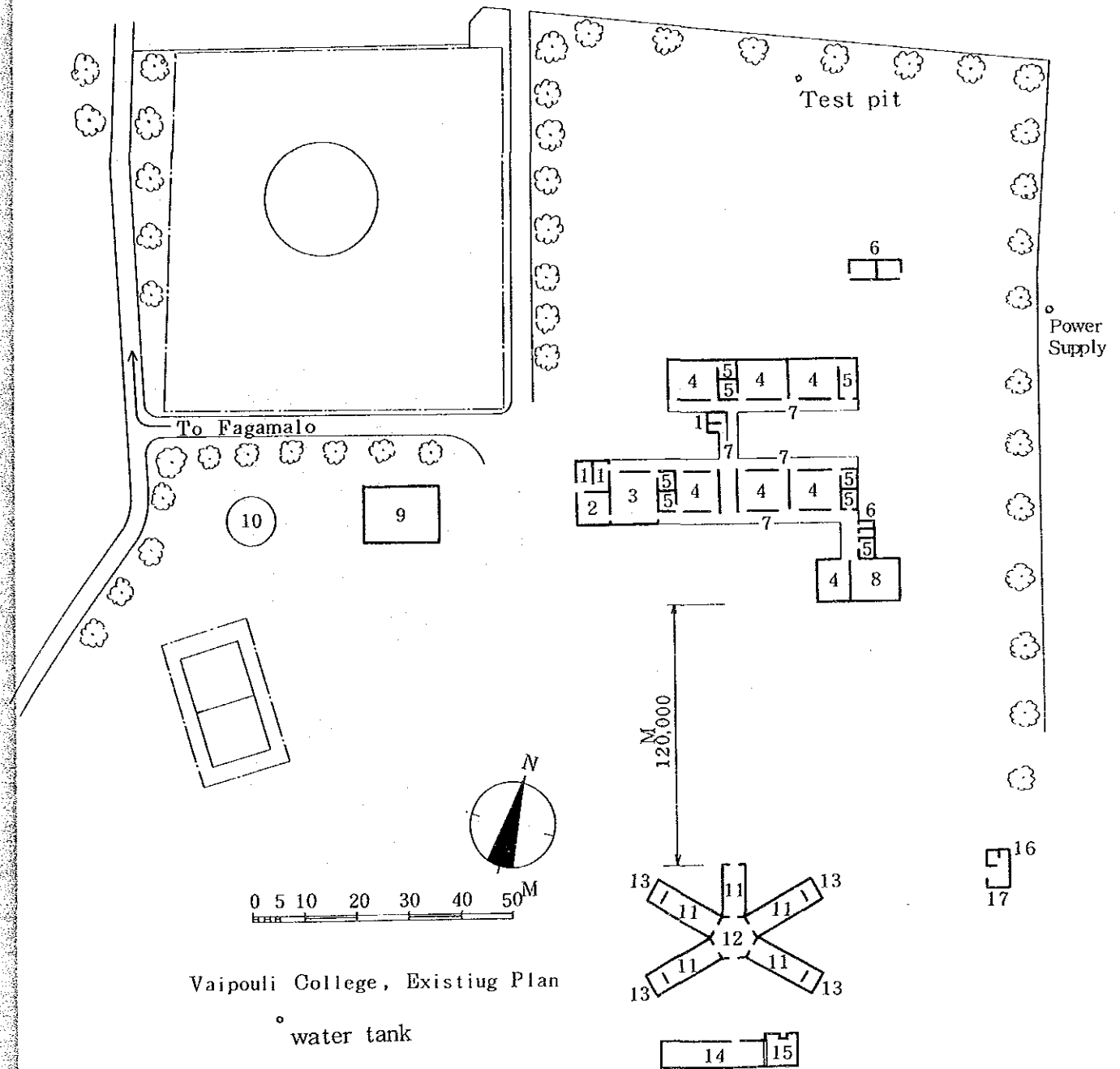
351 65

66

350

図6-1 施設 の 現 況

- | | | |
|-----------------|--|-----------------|
| 1. Staff Room | 7. Open Corridor | 12. Lavatory |
| 2. Meeting Room | 8. Library | 13. Hall |
| 3. Laboratory | 9. Work Shop | 14. Dining Room |
| 4. Classroom | 10. Fale (traditional house
used for Special picture) | 15. Kitchen |
| 5. Storage | 11. Hostel | 16. Generator |
| 6. W. C. | | 17. Garage |



6-3-2 Avele College

敷地はウポル島の首都アピアの中心街より南へ約4 Kmの地域 Vailima の丘陵地にあり敷地全体が平坦部の少い傾斜地となっている。Latava へ向う道路と分岐する進入路に挟まれた部分は農業省所有の農場で、これに沿って進んだ奥が Avele College のキャンパスとなっている。敷地全体の高低差は最上部の教室棟の建っている部分と最低部のスポーツフィールド予定地では約40 mの高低があり、最低部の標高は180 mである。図6-2に示すごとく敷地の高い部分には校舎及び管理棟群、これよりなだらかな下り勾配に従って食堂厨房、学生寮棟群が配置され、各々その周辺に職員住宅が配されている。運動場もこの傾斜のまま使用され、ラグビーコートも相方のゴールポスト間で約10 mの高低差を有している状態である。最低部のスポーツフィールド用地は数年前に整地工事が始められたが中止され、現状は未完成のまま放置されている。敷地内道路は各施設に沿って回遊状になっている。周辺はココナツヤシ、バナナその他の雑木林でかこまれ、南及び東側は急勾配で下っている。

インフラストラクチャーは、電気、給水とも在来建物に供給されている。

地盤については図6-2に示す位置の試掘点で約500 $\frac{mm}{m}$ 厚の腐蝕土の下はローム層となっており、厚さは不明であるがローム層の下は火山性の岩石と予想される。



写真15 Avele College
Test Pit

Avele College 案内図

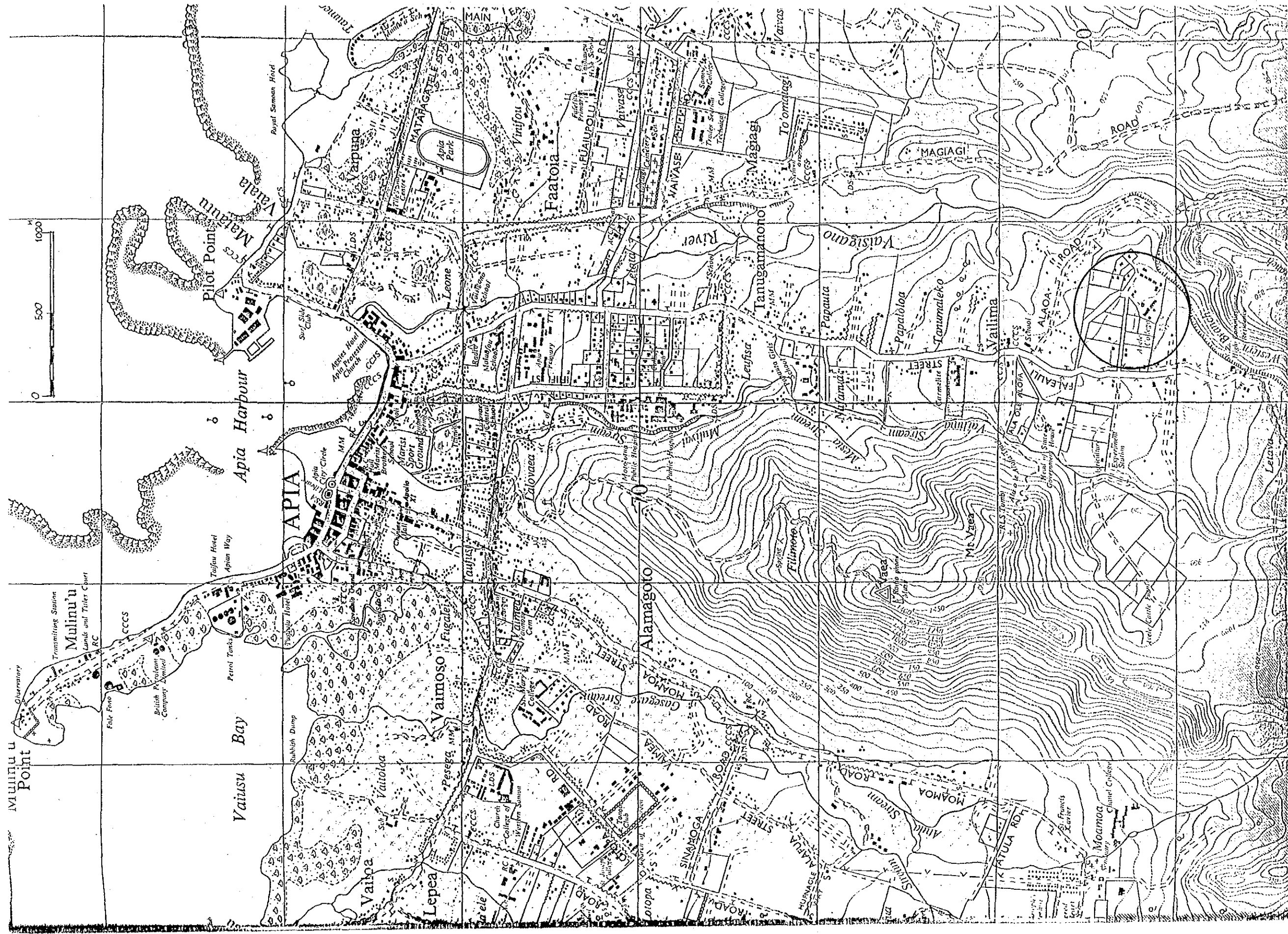


図6-2 施設 の 現 況



- 1. Staff Room
- 2. Libravy
- 3. Starage
- 4. Classroom
- 5. Laboratory
- 6. Assewbry Hall
- 7. Hoster
- 8. Toilet
- 9. Dining Room
- 10. Kitchen
- 11. House
- 12. Pale (traditional house used for Special lecture)
- 13. Toilet
- 14. Work Shop
- 15. Clinic
- 16. House
- 17. Sports Field
- 18. Site for New Sports Field

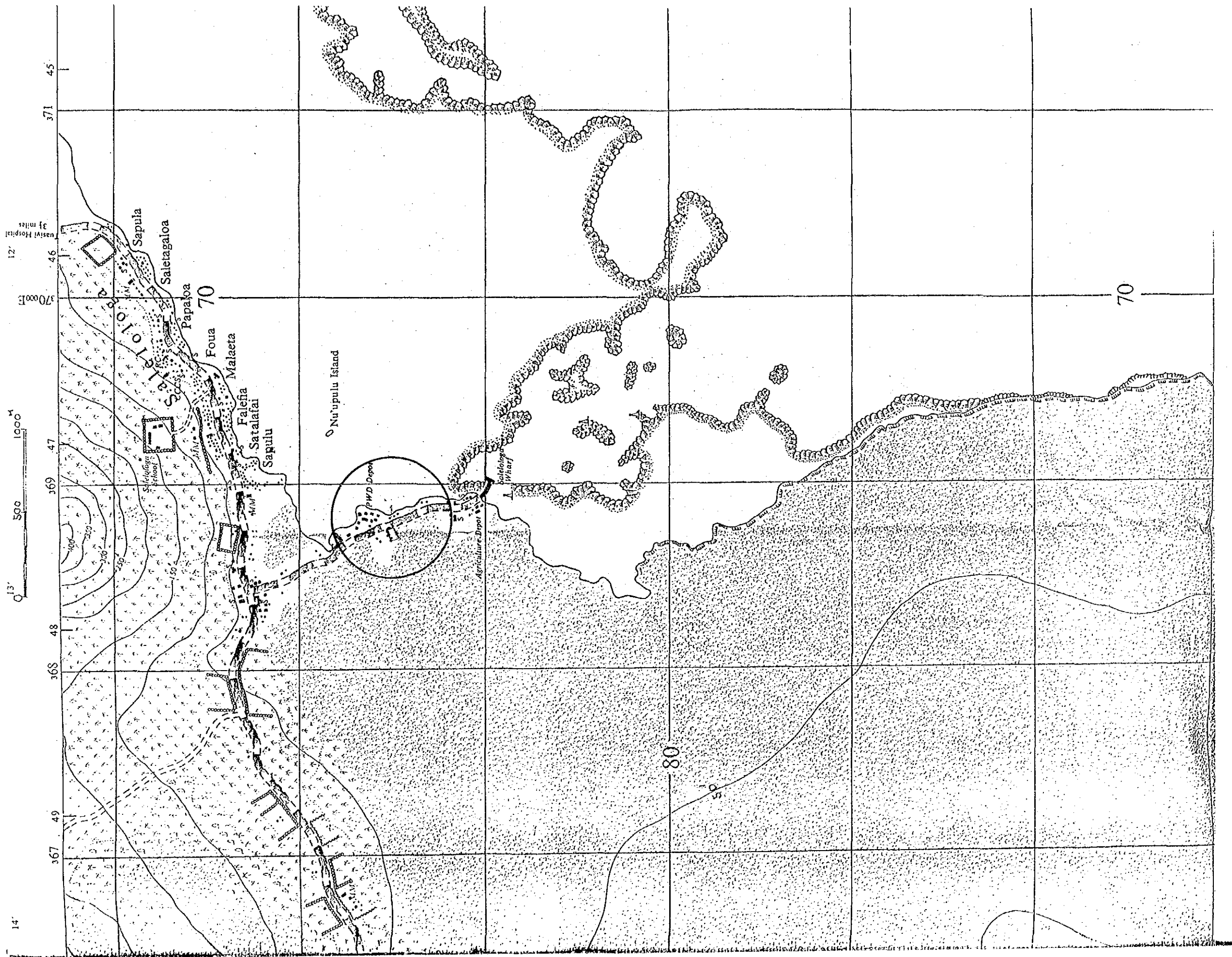
Avelc College , Existing Plan

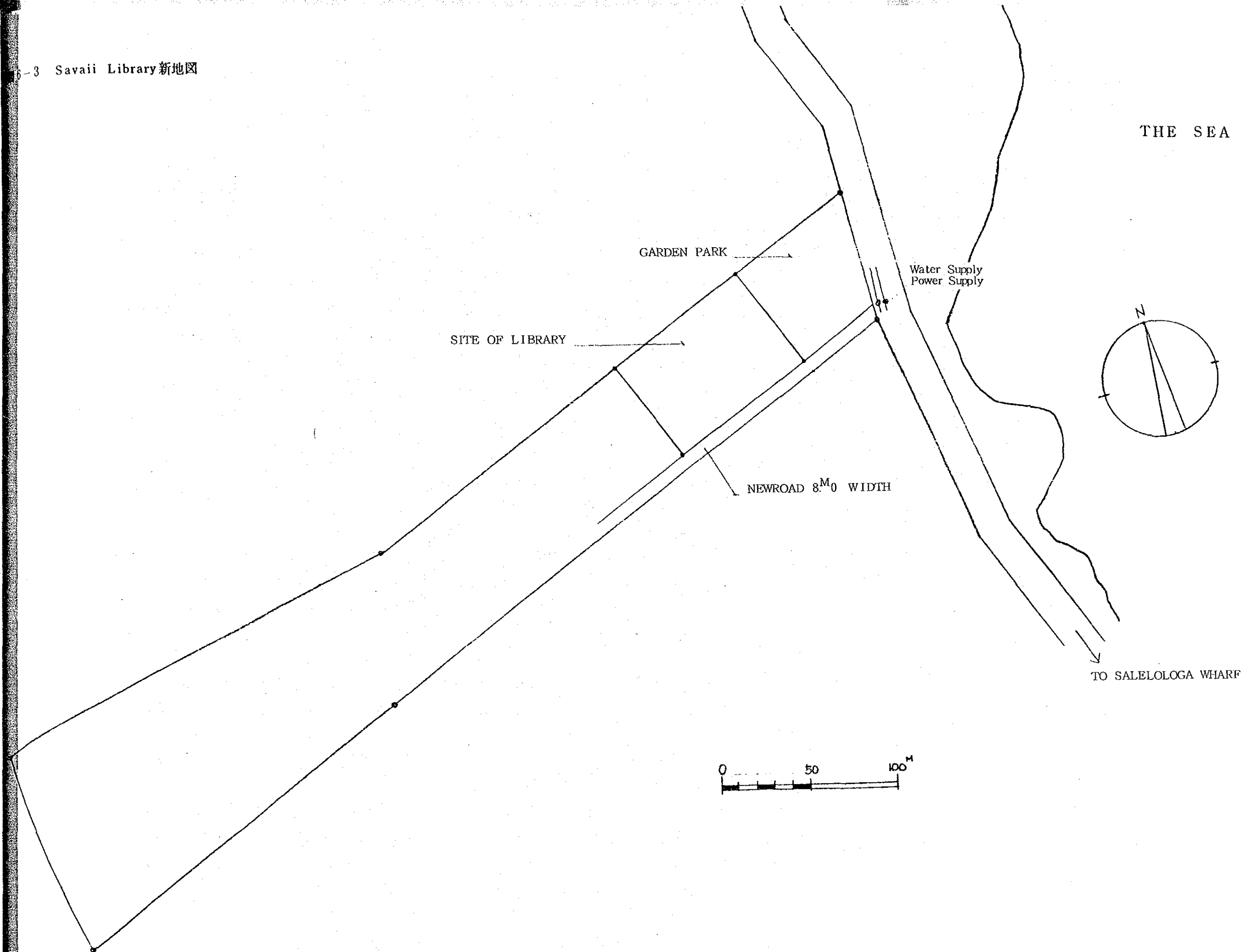
6-3-3 Savaii Library at Salelologa

敷地はサバイ島の中心地 Salelologa にあり、港に通じる幹線道路に接して間口 80 m、奥行 600 m の東西軸に長く、概ね矩形をなしている。将来教育省の他の施設もこの敷地を利用する予定であり、その面も考慮して配置計画を立てる必要がある。西側の道路をへだてて反対側はやや平坦な土地で、その先は海に接しているため西側の眺望は良い。敷地地盤は熔岩状の岩石が露出し地盤面に凹凸があり、全般に道路側より奥に入るにつれ高くなって雑木林となっている。

整地はローカルコストにおいておこなわれるが、隣接地との取合及び敷地内の道路の位置、図書館の配置については検討を要する。

インフラストラクチャーについては、電気、給水とも前面道路より引込みが可能である。





THE SEA

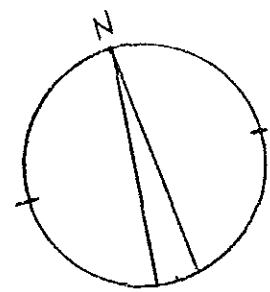
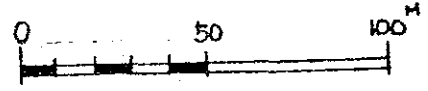
GARDEN PARK

SITE OF LIBRARY

Water Supply
Power Supply

NEWROAD 8^M0 WIDTH

TO SALELOLOGA WHARF



6-4 配置計画

Vaipouli College, Avele Collegeとも在来のキャンパス内に新しい棟を建設するため、在来棟との関連及び敷地の状況等についての制約があるが、基本としては建物の長軸方向を東西軸に配して適切な庇をもうける事によって日射を遮り通風を良くする事を配慮した。

6-4-1 Vaipouli College

当初西サモア国より提示された教育施設拡張計画によればウッドワーク及びホームサイエンスの特別教室は独立した棟とし、他の生物学実験室、二つの普通教室については在来建物に接して建てる計画であった。この対象建物の配置を検討するにあたり、既存建物が木造で建設年度が異なるため老朽化が進み建替の必要が生じた場合には、相互の耐用年数の相違により将来増築計画に支障を来すことが想定される。このような観点より職業教育センターとして上記要望の機能を1棟にまとめ、在来建物と切り離して別棟として建設する事が最良である。

位置については、在来校舎の北側に約70m×90mの空地があり在来建物の建替時を考慮してできるだけ北側へ寄せ、在来棟と約48mの間隔をとって配置した。

6-4-2 Aveleカレッジ

キャンパス内は前記(6-3-2)のように地盤の高低差が大きく平坦部分が少ないことと、在来校舎との動線を考慮した場合増築建物の配置は制約をうけざるを得ない。農業科学及び生物実験室については前記 Vaipouli Collegeと同様の理由から独立した別棟とし、かつ在来教室棟部分より最も近い敷地南側を選定した。この部分も地盤面の高低差が建物長手方向で約1.5mあるが、基礎の高さによって調整可能の範囲である。

学生寮については既存の寮が4棟敷地の東隅にあり、管理及び食堂利用上隣接して建てる必要がある。一方収容人員(80人)の面から2階建としても建物の長手方向は約42mとなるため、地盤の傾斜になじませる事が難しい。このため建物長軸を南北とし、敷地高低に従って建物を中央でスキップさせることによって解決した。

スポーツフィールドは6レーン、400mトラックを計画しており、前記のように数年前に着手されたが現在整地工事が北側及び東側が未完成で放置されている。他の部分は粗造成されているが3m内外の高低差があり全般的に更に整地を必要とする。仕上げはフィールド、トラックとも芝貼りとする。付属施設としてフィールド東南隅に更衣、便所棟40m²を1棟設置する。

6-4-3 Savaii Library at Salelologa

敷地前の道路は Salelologa 港へ通じる幹線道路のためトラック等の交通量が多く、建物の用途上騒音を遮へいし、図書館としての機能を充分発揮できる環境をつくり出す事が重要である。このため南側隣地に接して巾員 8 m の進入路を設け、前面道路に面した部分、約 4000 m² (70 m × 60 m) を公園用地としこの奥の約 6000 m² (70 m × 85 m) を図書館敷地として確保する。来館者は敷地南側道路及び東側の公園側より導入し、児童関係及び一般閲覧室は公園側に面して配置し、将来計画としての屋外閲覧室との関連を考慮している。又図書館活動の一部である移動図書館用の自動車の導入を西側とし、一般来館者との動線の分離をはかった。

6-5 平面計画

6-5-1 Vaipouli College

教育センター棟として要求のあった室とその機能は次の通りである。

生物学実験室 17.6 m × 8.5

上記のうち実験室は 12.8 m × 8.5 m、教師室 4.8 × 8.5

実験室は教師用机、生徒用机 6ヶ、ともに実験流し付、壁付造付戸棚、黒板、掲示板、
教壇。

教師室は壁側に造付戸棚 2ヶ所、内 1ヶ所実験流し付とする。又これに付属して棚付の倉庫。

普通教室 12.2 m × 7.8 m 倉庫 3 m × 7.8 m

教師用机、黒板、掲示板、造付戸棚。

使用目的は主としてタイプライターや簿記等の職業教育を予定しており、タイプライターの音の配慮が必要である。

倉庫は棚付とする。

家庭科教室 11.2 × 9.0 m 教師室 3.6 × 9.0

黒板、掲示板、造付戸棚 — 上部料理用シンク及びレンヂ台付 (灯油レンヂは別途)、

外部に地流し、教師室造付戸棚 — 上部料理用シンク及びレンヂ台付

使用目的は料理及び裁縫を主とする。

火を扱うため防火、換気また音に対する配慮が必要である。

木工教室 14.0 m × 9.0 m 倉庫 3.6 × 9.0

黒板、掲示板、造付戸棚、手洗用流し 2ヶ所、倉庫は造付棚付の工具倉庫と外部より出し入れする奥行 4 m の木材倉庫とする。木工具等による騒音の配慮が必要である。

上記の各室を1棟としての計画であるが、自然条件と経済性の上から必然的に吹放しの片廊下形式を採用し、在来校舎との動線も吹放しの廊下で接続した。コンクリートブロック造耐力壁+木造トラス屋根方式を採用したことから耐力壁としてのコンクリートブロック壁の均等配置、採光、通風の面からの開口面積、教室相互間の遮音等を考慮し倉庫、教師室を教室間に配し、特に生物学実験室は西側端部に配置し振動、騒音の発生し易い木工室を東側端部に配置する事によって各教室の機能をさまたげられぬよう配慮した。

6-5-2 Avele College

要求のあった室と機能は次の通りである。

映写教室及び映写準備室 12.0 m × 8.0 m

映写教室 8.4 × 8.0 黑板及び造付戸棚

映写準備室 3.6 × 8.0 造付戸棚、両室とも冷房設備

生物学実験室 13.3 × 8.0 教師室 4.7 × 8.0

生物学実験室、黑板、掲示板、教壇、教師用机、生徒用机6ヶ、ともに実験用流し付、造付戸棚。

教師室 造付戸棚実験用流し付。

上記各室を1棟とする計画である。前記 Vaipouli と同じく吹放し片廊下形式を採用し、耐震的な壁の配置を行なっている。

学生寮 42.0 × 6.0 2階建、 収容人員80名

洗面所、 便所、 シャワー室、 舎監室、

既存の学生寮は平家建が4棟あり、1棟約130 m²、収容人員は約40名 3.25 m²/人である。敷地の項で述べた如く傾斜があるため適切な場所が得難く、2階建として2段ベットのを使用することによりコンパクトな平面を採用した。1、2階とも両妻側にサニタリーを設け、又舎監室を上下に配している。又中央部にラウンジを設計、寮生活に潤いを持たせることを配慮している。

6-5-3 Savaii Library at Salelologa

Upolu島にある首都 Apia に現在 Nelson 公立図書館（資料編 参照）があるが Savaii 図書館はこの活動の一環として Salelologa に建設されるもので島の拠点となることから Nelson 図書館と同様の機能をそなえる他に集会室を設けている。

以下所要室を列記すると、

Pacific Room 16.0 × 9.0

南太平洋関係の資料を集めた部屋で開架書庫式の閲覧室

一般閲覧室 16.0×9.0 開架書庫式

児童閲覧室 10.0×11.0 開架書庫式

受付 6.0×4.0

オープンカウンター方式で玄関及び上記各室を見通せる位置に配し、事務室、ワークルームともつながる。

集会室 12.0×9.0

図書館の内部機能とは直接関係はないが地域の文化活動等多目的に利用される。

ワークルーム 4.0×4.0

本の修理、点検等を行う。

ストレージ 6.0×5.8

可動書架による書庫

ガレージ 10.0×4.0

移動図書館用の車庫

事務室 6.0×3.0

Nelson 図書館の視察の結果 Pacific Room は一般の閲覧室と異ってアカデミック指向があり、他の部分とは独立した配慮が必要であるため入口より奥まった位置に設け、児童閲覧室は入口に近く、その間に一般閲覧室を配し、又将来屋外閲覧室を設ける際はこれより公園側に拡がる形を予定している。受付は前述のように各々の室の中心に配してオープンカウンター形式をとり、管理面での便宜を考慮した。集会室はそれ自体独立した機能を持つため入口も単独に設け、図書館機能と互いに影響を及ぼさぬよう計画している。移動図書館用の車庫は南側とし、将来別棟書庫等の増築の場合の関連をも考慮した。又 Pacific Room はその用途から空調設備を設置する。便所は職員用のみ建物内に設け、来館者用は別棟とした。

6-6 断面及び立面計画

現地の熱帯地方の自然条件に適した建築は古くからの伝統様式である Fale にみられるように、棟を高くとった急勾配の屋根を設けて日射と雨水を遮り、壁を設けず柱によって開口部を広くとり通風を良くする方法である。棟を高くすることは輻射熱の分散に役立ち、急勾配の屋根は熱帯性のスコールに対して有効である。一方現在定着している方式は約 4 寸勾配 (20°) の波型亜鉛メッキ鉄板屋根に断熱材 (ルーフィングの両面に錫箔を張ったもの) を下貼りし、天井を張ったうえ小屋裏の通風を良くすることによって屋根よりの輻射熱を分散させ、壁面につ

いては開口部を広くとりガラスルーバーを使用して通風を最大限に利用している。

床については高床が望ましいがコンクリート床で地盤面より 30 cm 程高くして対応している。このような状況を考慮し日射を遮り通風を良くし遮熱の効果を大ならしめるため、断面計画にあたっては庇の出を大きくする一方壁の開口部を出来るだけ大きくして通風、採光をとり入れるとともに小屋裏に断熱材を有効利用することにより風土に適した建物を意図している。

Avele College 学生寮は敷地の関係より 2 階建とし、地盤の傾斜に従って中間でスキップさせているが他の建物は平家建としている。

Savaii 図書館については用途上天井を高くして室の容積を大きくし、高窓等を有効に配して通風、採光を考慮している。

立面計画については両カレッジにあつては敷地の状況から軒先の出の深い、入母屋あるいは切妻の屋根で水平線を強調した外観が在来の建物及び周囲の景観と良くマッチする。

Savaii 図書館にあつては外観上からも地区の文化活動の拠点となることからして、形、色彩ともユニークな印象を保持することを配慮した。

6-7 工法の選択と構造計画

6-1 で述べた建築設計上からみた風土等を考慮し、設計にあつての基本方針を策定、調査によって得た資料を分析した結果、可能なかぎり現地調達資材を用いて建設すべきであるとの結論に達した。最終工期を 1982 年 3 月と考えた場合この工期におさめるためには建設工法としてプレファブ化の比率を高くすることが考えられるが既存の施設とのバランス、完成後のメンテナンス等に問題があり、更にコスト分析の結果輸送コストは輸送容積が大きくなるため、工事費にしめる率が非常に高くなり経済的に成立しない。

標準的な学校施設については西サモア政府の P. W. D. (Public Works Department) において実績があり、現地労務者に経験のある現地調達の資材を最大限に利用する工法、すなわちコンクリートブロック造耐力壁+木造トラス屋根方式を耐震、耐風的に改良した工法が最適とされる。

一方 Savaii 図書館については Savaii 島地区の教育、文化の拠点となる施設であり、かつ首都アピアにあるネルソン公立図書館と一体化された活動の線上にあることからして、その内容、外観とも地域の象徴となるべき性格を持つため、その空間構成を技術的に検討した結果、主体構造を補強コンクリートブロック造とし、木造トラス屋根方式とする工法を採用した。

構造計画については、現地では構造設計に関する規準はニュージーランドの規準に基いているが、前述のように地震が比較的多いため、日本建築学会の諸規準も参考に現地の実情に合った形で、耐震的に強固な建物を造ることが妥当であると考えられる。

6-8 設備計画

現地で生産される設備器材は無く、ほとんどを輸入に頼っている。又、メンテナンスについても技術者が少なく十分に活用されていないのが現状である。これらの現地の事情を考慮して、設備内容は必要最小限にとどめることを原則とした。

6-8-1 給水計画

Upolu島ではニュージーランドの援助により全島に渡って水道施設を施工中であり、今回計画の内、Avele, Salelologaには水道設備が完備している。又、Vaipouliについては独自に河川より水を引いた給水設備を有している。従って各敷地とも、最寄りの給水設備より必要箇所に供給する計画とした。

6-8-2 排水計画

排水処理施設については中央処理施設は無く、個別の浄化槽と浸透槽が使われているが、これらについての法規並びに技術的な基準は明確にされていない。但し、P. W. D. (Public Works Department) ではニュージーランドの規格を参考として使用している。従って本計画においてもニュージーランド規格(資料編33参照)に準ずる事とした。

6-8-3 ガス設備

Vaipouli, Avele各校の実験室にL. P. G.を計画する。ガスボンベは屋外に設置し、実験机に各1ヶ所ずつガスカランを設置する。

6-8-4 空調・換気計画

Avele Collegeの映写教室・映写準備室並びにSavaii図書館のPacific Roomに現地の要望により空調設備を計画する。使用機種については、取り扱い上の簡便さと、現地で多く使われている事からウインド型ルームクーラーを設置する。

又、図書館については在来図書館と同等の室内環境を維持するために倉庫を除いた各室に天井扇を計画する。

6-8-5 照明・コンセント

Avele, Salelologaの両敷地に対しては、E. P. C. (Electric Power Supply Corporation)の供給による電力設備が完備している。又、Vaipouliについては独自に自家発電装置を有して送電している。従って学校諸室については200Lx程度、図書館諸室については200～300Lxの照度が確保出来る照明計画とする。

一方、コンセントについては各室の使用状態を考慮した適切な配置計画とする。

6-8-6 自家発電装置

上記(5)項で述べたように、Vaipouliには電力供給がなく独自の自家発電装置が必要である。現在65KVA(水冷式)が1台設置されているが故障、メンテナンス等を考慮して同容量の自家発電装置を1台新設する。なお現地の要望により空冷式で計画する。

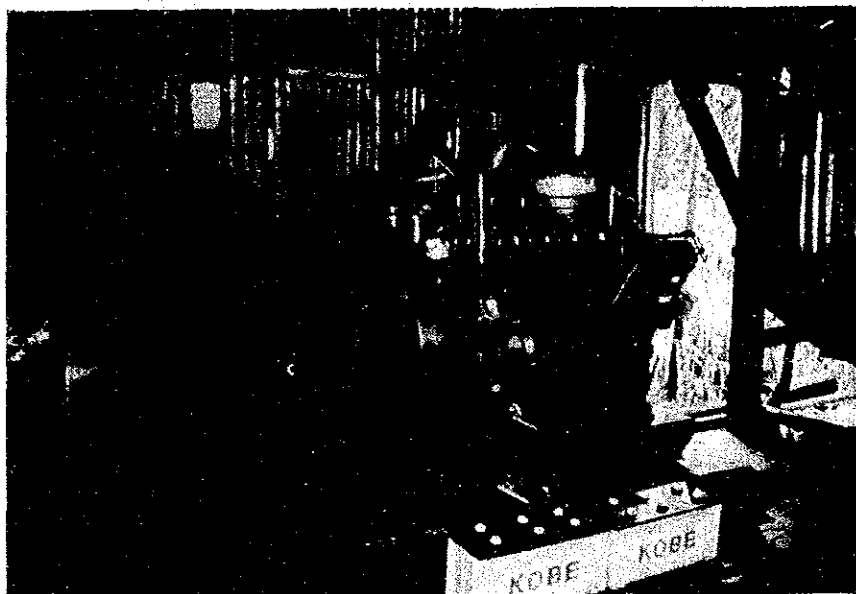


写真16 Vaipouli College
自家発電装置

6-9 造付家具計画

ミニッツにて合意した造付家具は次表のものとする。

Vaipouli College

	名	称	仕	様	個	数	
	実	験	台	3.0m × 0.9	両端実験流し付	木製 6	
Laboratory	造	付	棚	1.24 × 0.5		木製 1	
				8.0 × 0.5		木製 1	
	教	師	用	机	4.5 × 0.7	実験流し付 木製 1	
	教		壇	4.5 × 1.8 × 0.2		木製 1	
	黒		板	4.5 × 1.2		木製 1	
	掲		示	板		木製 1	
教	師	室	造	付	棚	6.0 × 0.6	流し付 1
			〃			5.0 × 0.6 1	
倉	庫	造	付	棚			
教	室	造	付	棚	11.0 × 0.5	1	
					8.4 × 0.5	1	
	教		卓	4.5 × 0.7		1	
	教		壇	1.7 × 4.5		1	
	黒		板			1	
	掲		示	板		1	
倉	庫	造	付	棚		1式	
家	庭	科	造	付	流し, レンヂ台	9.4 × 0.6 1	
			〃		8.0 × 0.6	1	
	黒		板			1	
	掲		示	板		1	

	名 称	仕 様	個 数
教 師 室	造付流し, レンチ台	6.3 × 0.6	1
	造 付 棚	8.5 × 0.6	1
木 工 室	造 付 棚	8.0 × 0.5	1
	黒 板		1
	掲 示 板		1
	手 洗 流 し		2ヶ所
倉 庫	造 付 棚		1式
木材倉庫	造 付 棚		1式

Avele College

実 験 室	実 験 台	3.0 × 0.9	両端実験流し付 木製	6ヶ
	教 師 用 机	3.0 × 0.6	実験流し付	1
	教 壇	1.0 × 4.0		1
	造 付 棚	7.7 × 0.6		1
	黒 板			1
	掲 示 板			1
教 師 室	造 付 棚	0.6 × 7.7		1
	〃	0.6 × 6.7	実験流し付	1
映 写 室	造 付 棚	4.0 × 0.5		1
	黒 板			1
	掲 示 板			1
映写準備室	造 付 棚	0.6 × 7.7		1
	〃	0.6 × 3.0		1

Avele College 学生寮

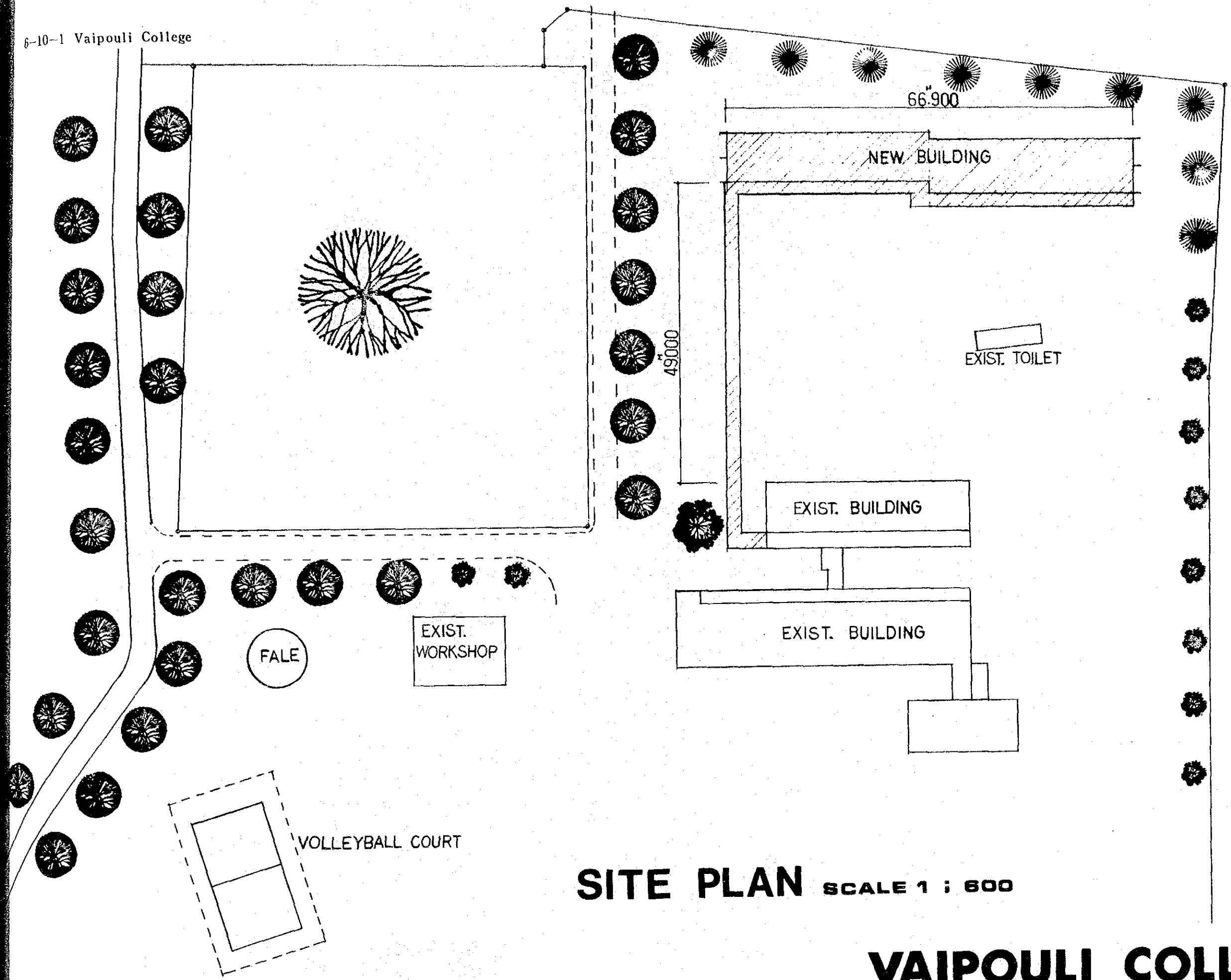
	名	称	仕	様	個	数
寝	室	壁付造付棚	0.6	×	5.8	8ヶ

Savaii 図書館

各	閱	覽	室	壁	付	書	架	1	式			
ワ	ー	ク	ル	ー	ム	流	し	コ	ン	ロ	台	1

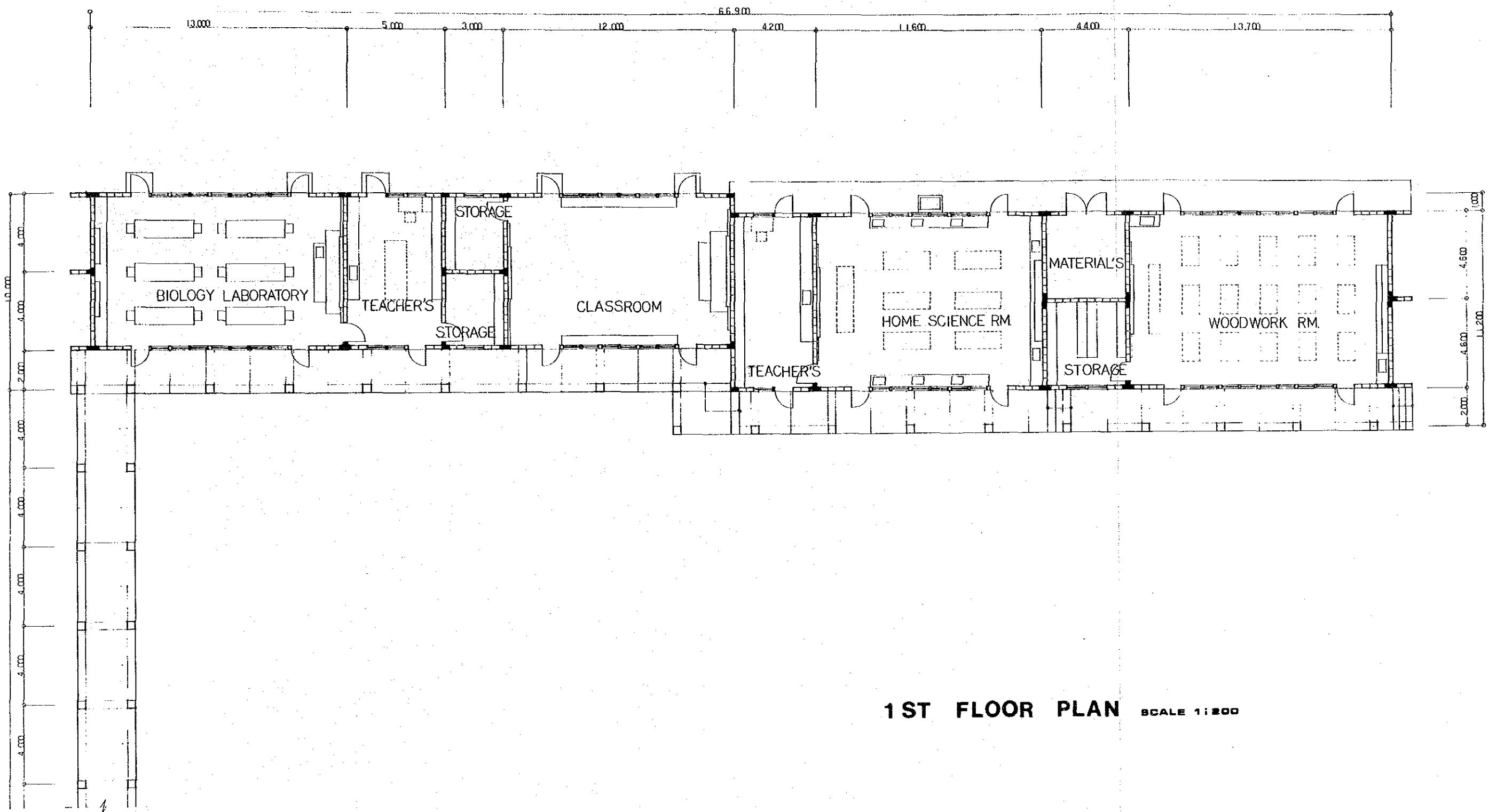
6-10 設 計 図

6-10-1 Vaipouli College



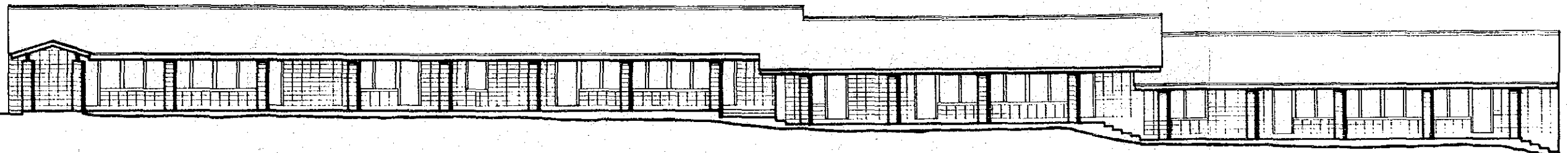
SITE PLAN SCALE 1 : 600

VAIPOULI COLLEGE

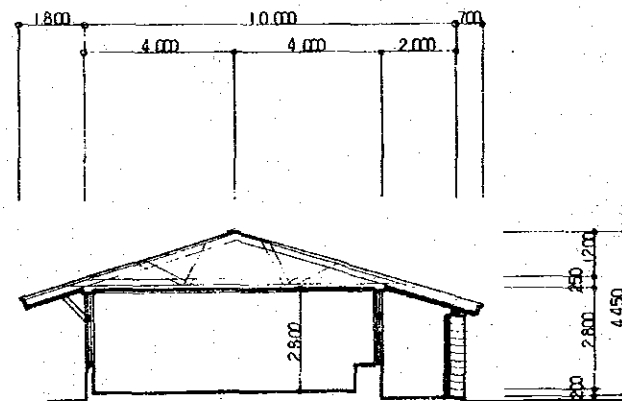


1ST FLOOR PLAN SCALE 1:200

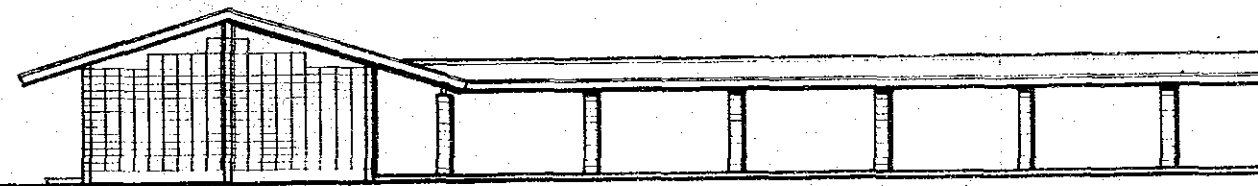
VAIPOULI COLLEGE LABORATORY



SOUTH ELEVATION SCALE 1:200

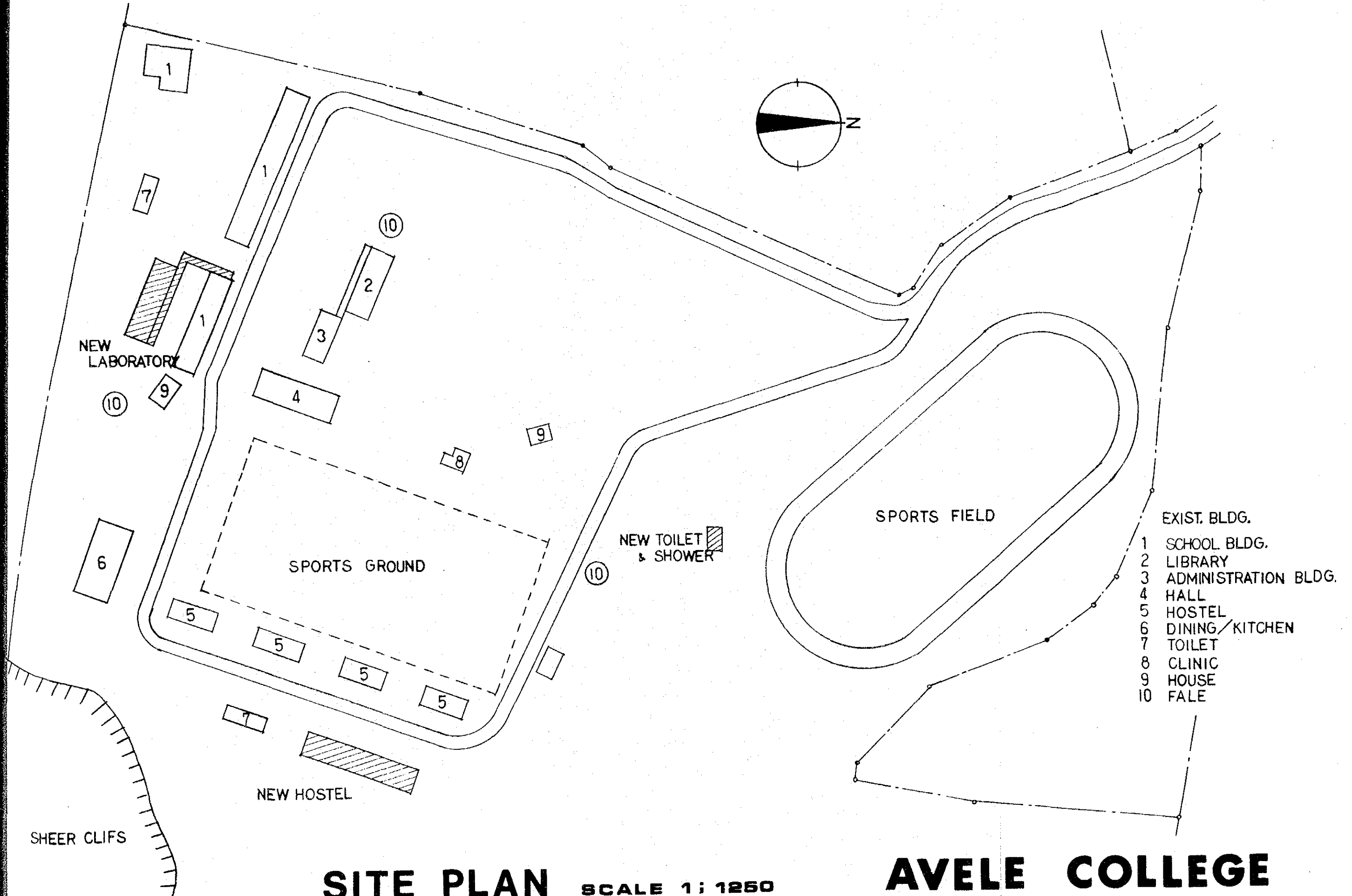


SECTION SCALE 1:200



EAST ELEVATION SCALE 1:200

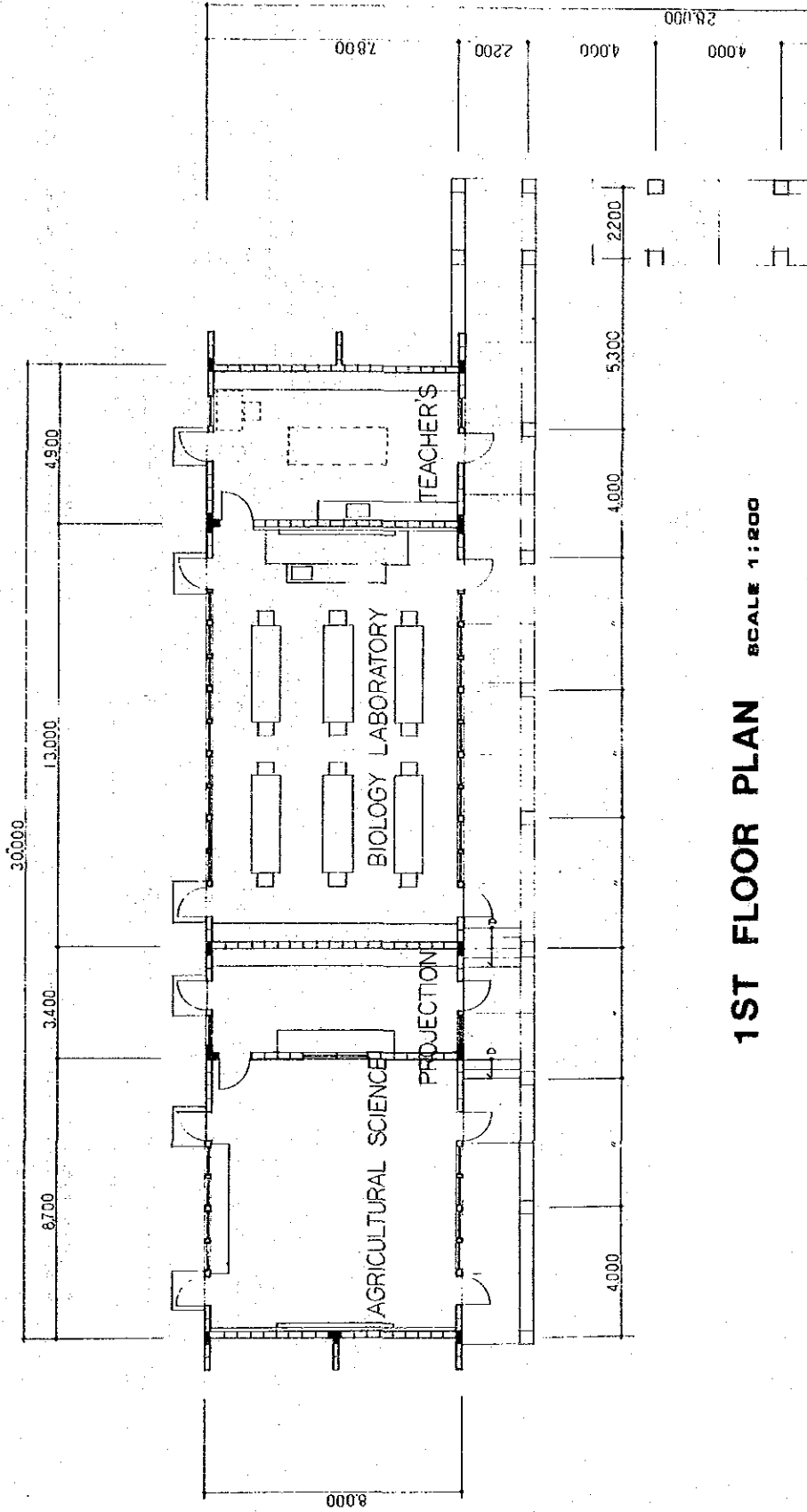
VAIPOULI COLLEGE LABORATORY



- EXIST. BLDG.
- 1 SCHOOL BLDG.
 - 2 LIBRARY
 - 3 ADMINISTRATION BLDG.
 - 4 HALL
 - 5 HOSTEL
 - 6 DINING/KITCHEN
 - 7 TOILET
 - 8 CLINIC
 - 9 HOUSE
 - 10 FALE

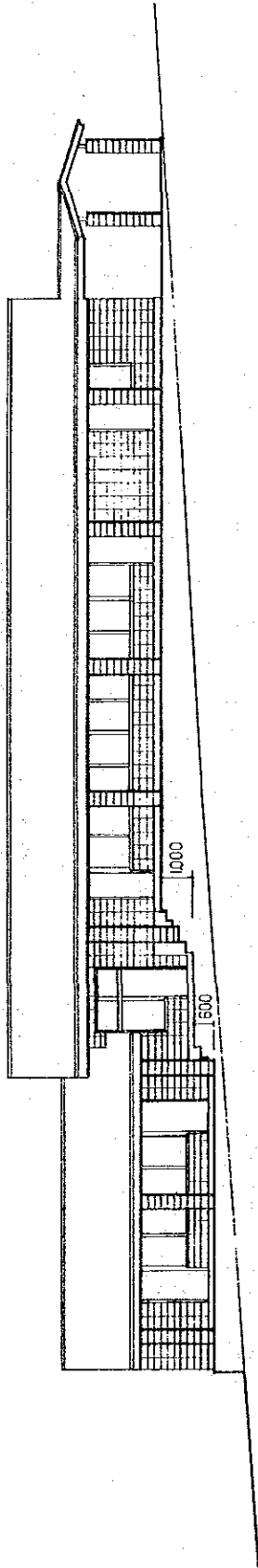
SITE PLAN SCALE 1: 1250

AVELE COLLEGE

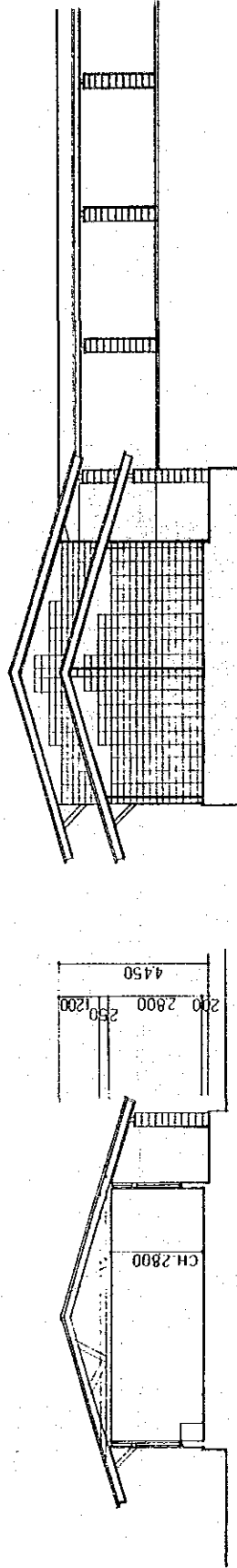


1ST FLOOR PLAN SCALE 1:200

AVELE COLLEGE LABORATORY



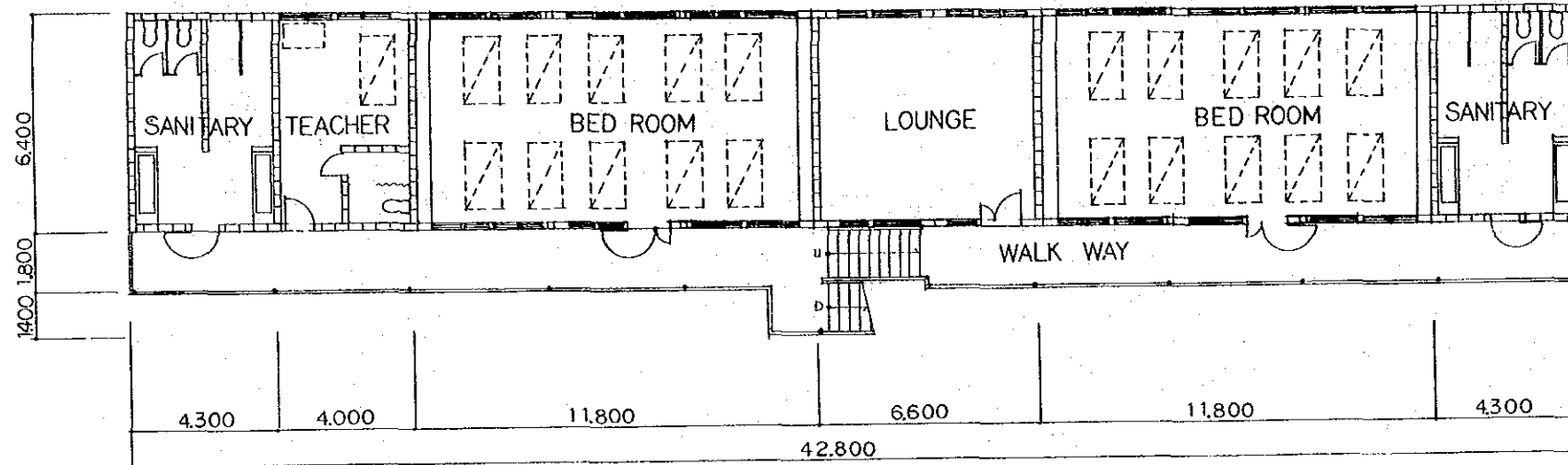
NORTH ELEVATION SCALE 1:200



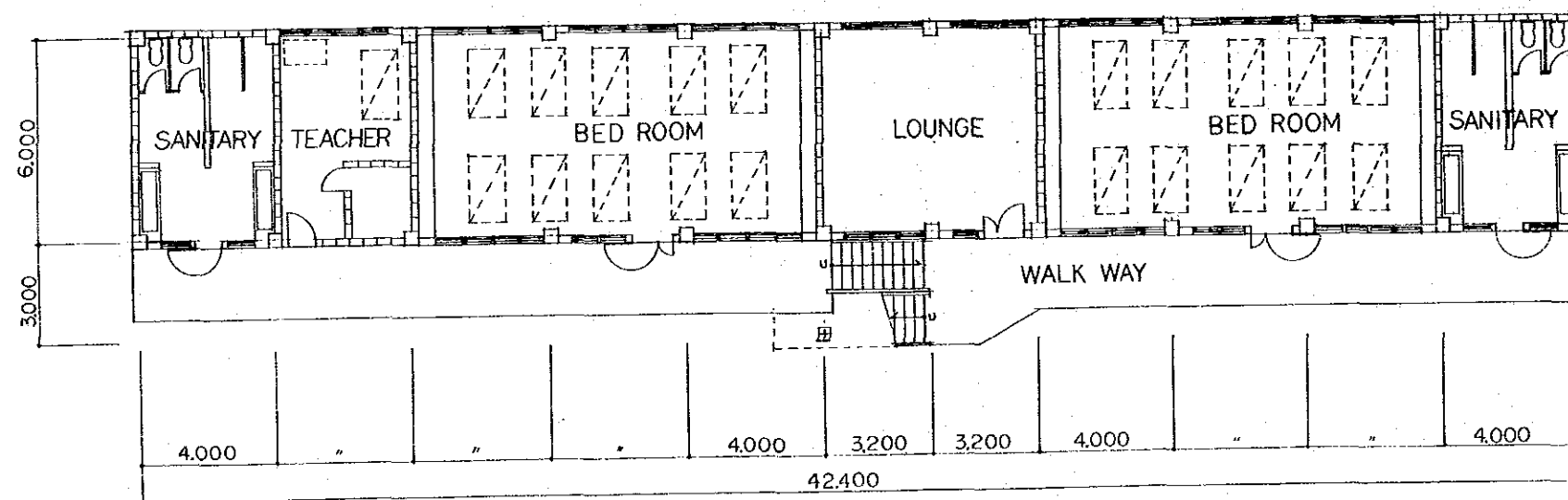
SECTION SCALE 1:200

EAST ELEVATION SCALE 1:200

AVELE COLLEGE LABORATORY

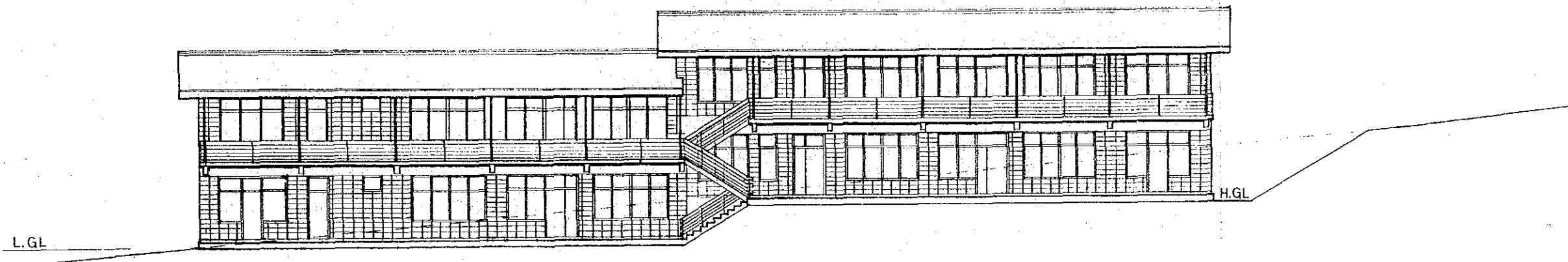


2 ND FLOOR PLAN SCALE 1:200

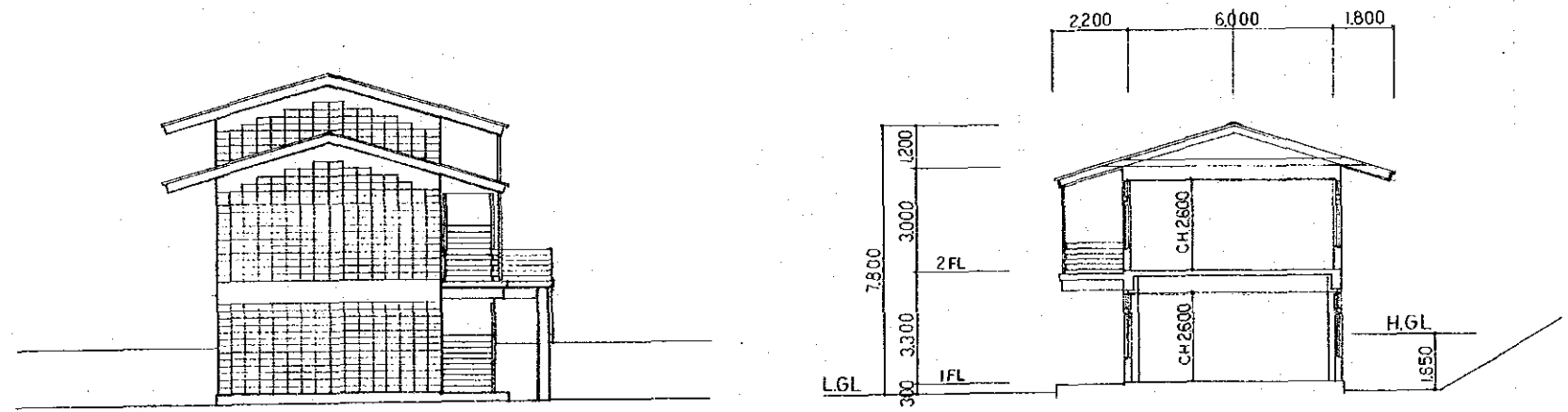


1 ST FLOOR PLAN SCALE 1:200

AVELE COLLEGE HOSTEL



WEST ELEVATION

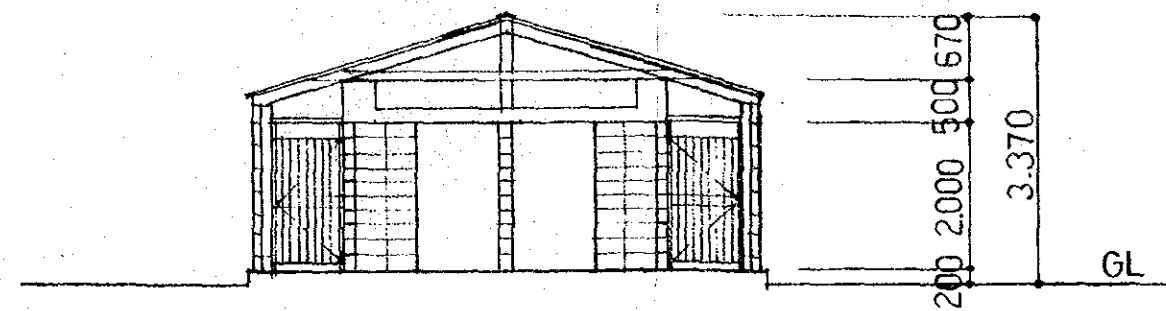
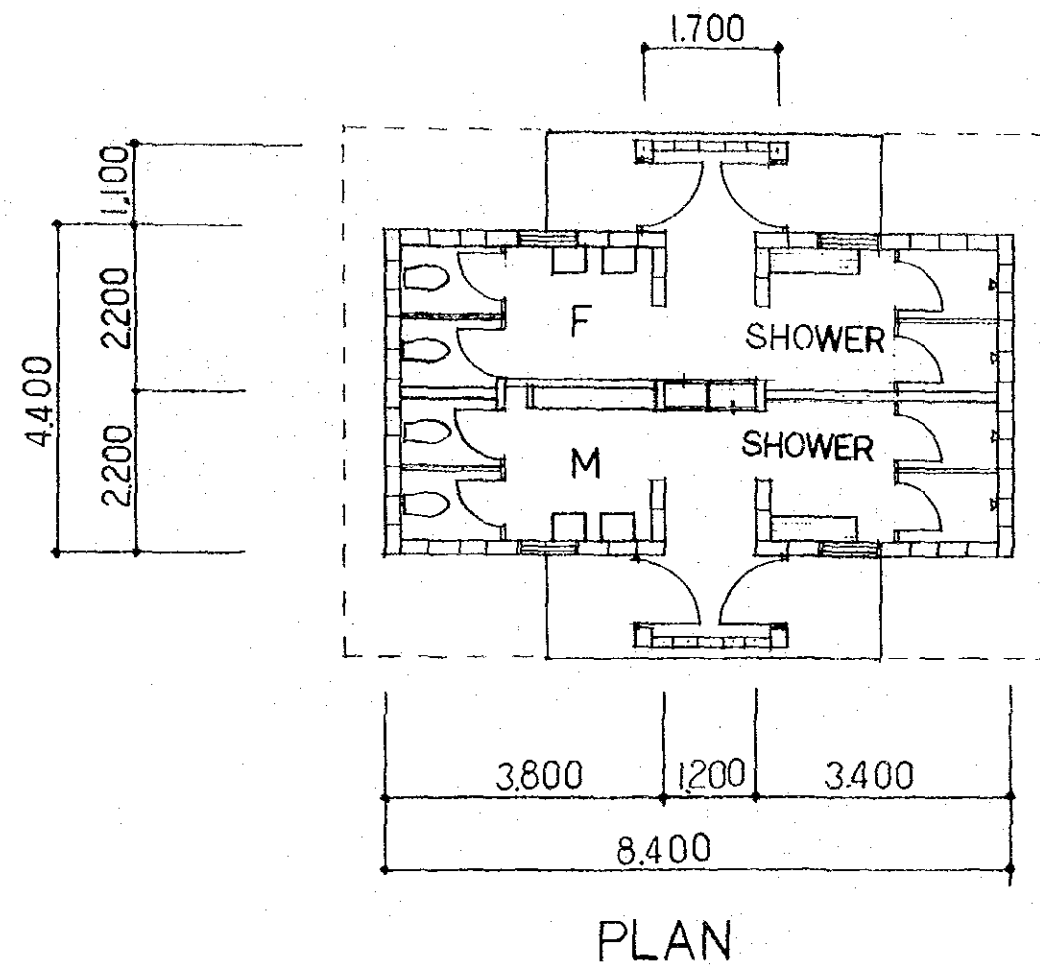


NORTH ELEVATION

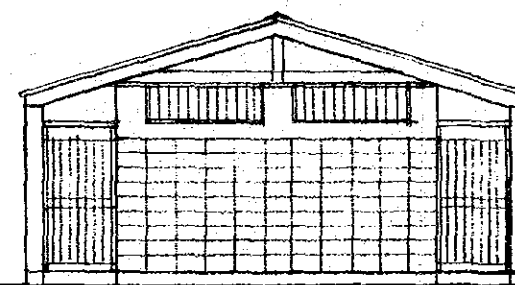
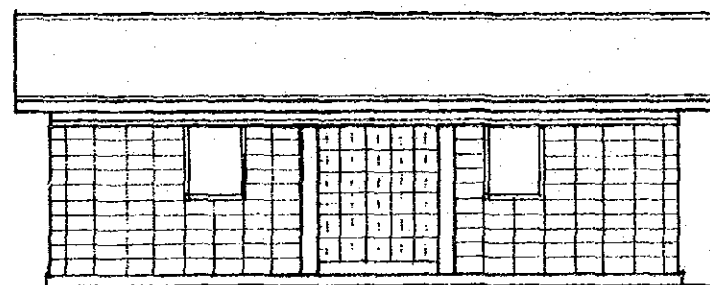
SCALE 1 : 200

SECTION

AVELE COLLEGE HOSTEL

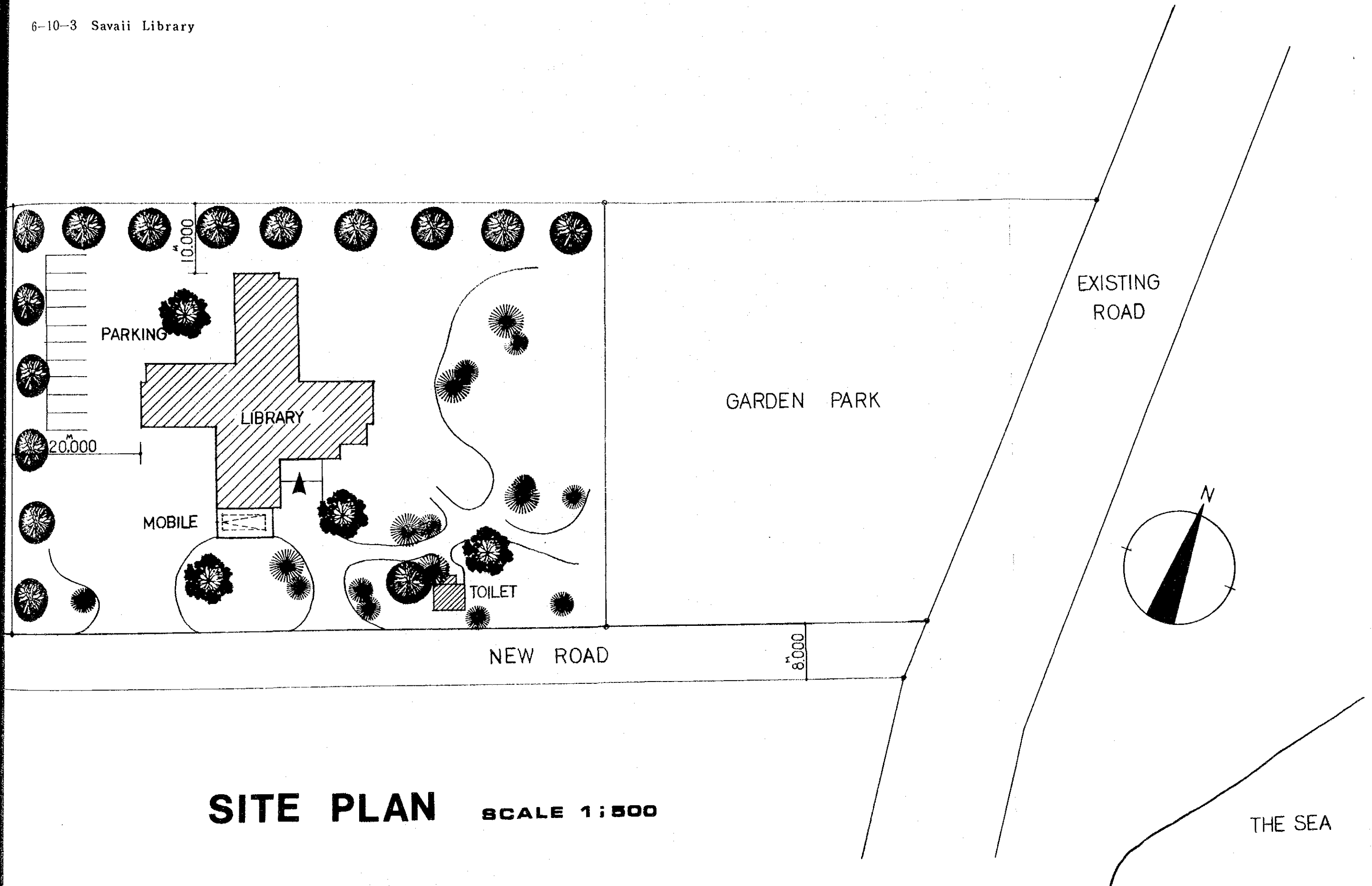


SCALE 1:100



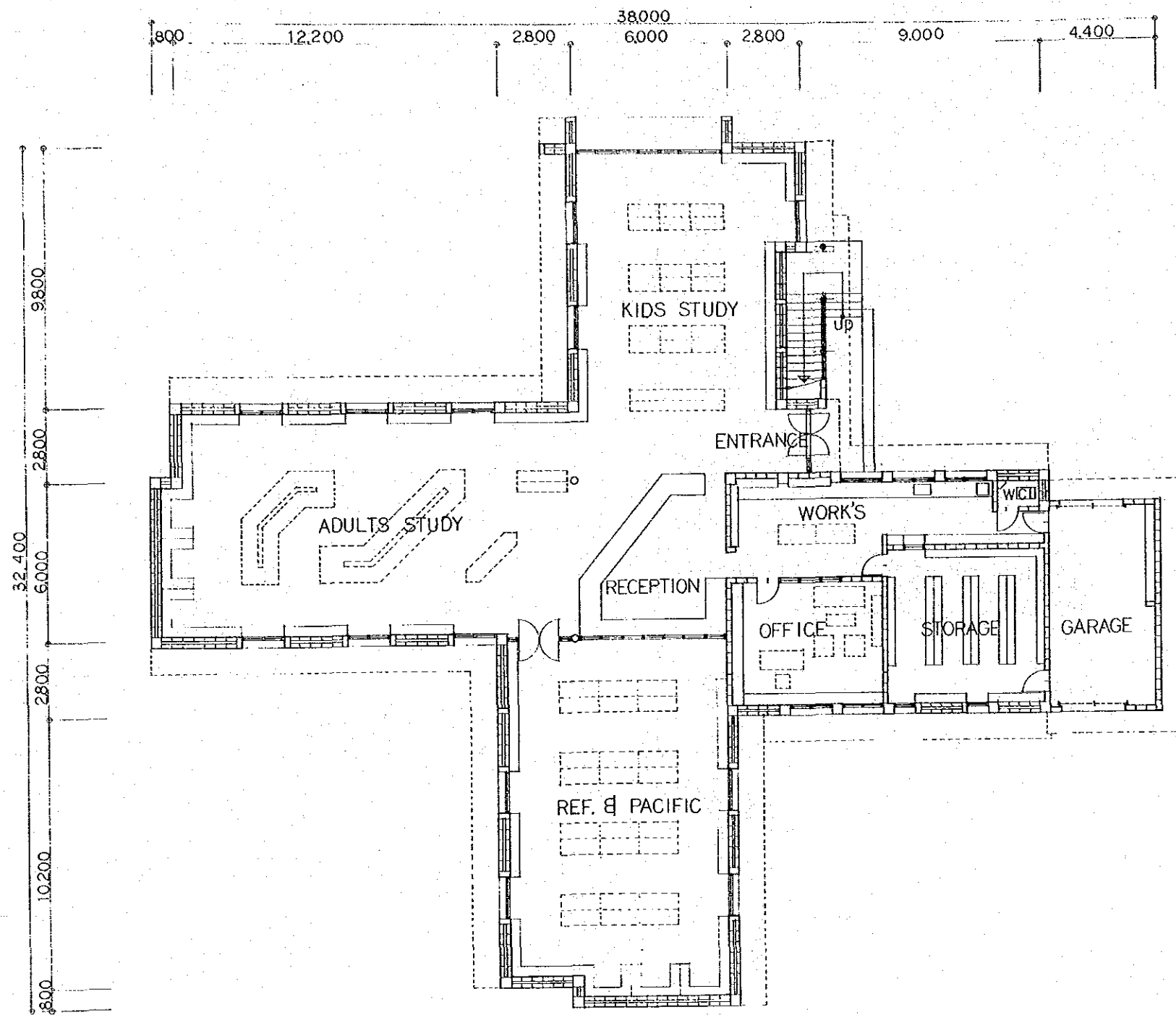
ELEVATION

AVELE COLLEGE SPORTSFIELD TOILET & SHOWER BLOCK



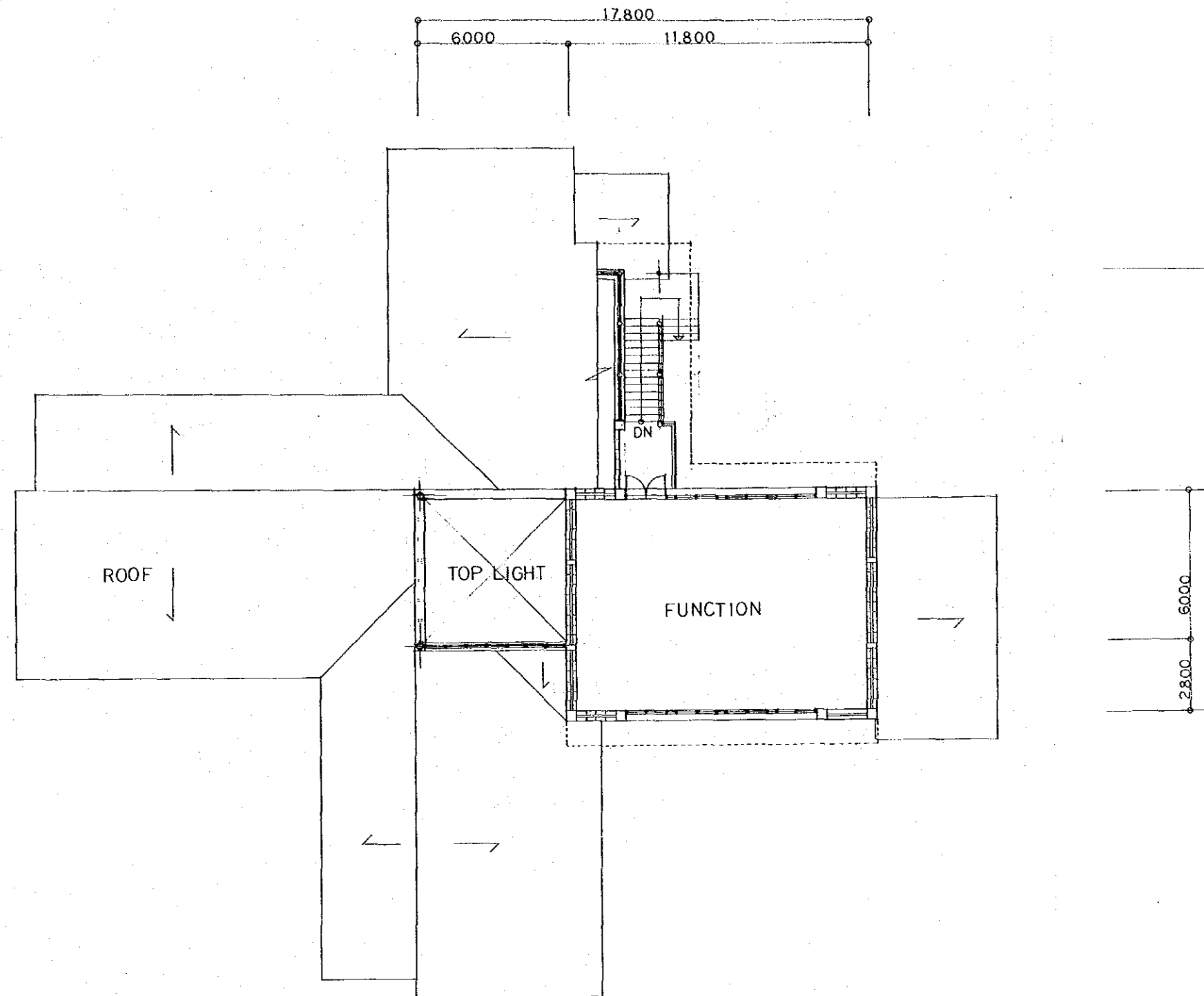
SITE PLAN **SCALE 1:500**

SAVAII LIBRARY



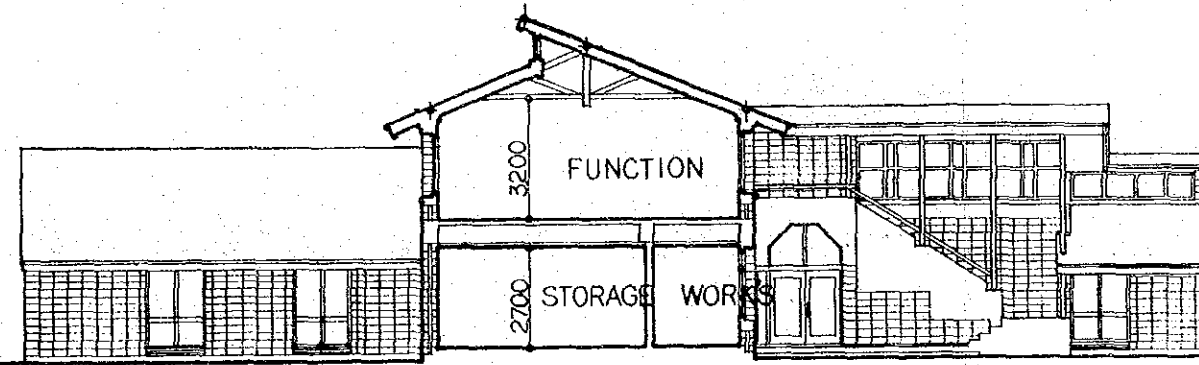
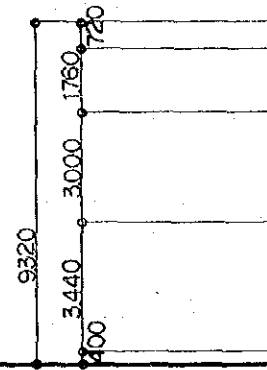
1 ST FLOOR PLAN SCALE 1/200

SAVAII LIBRARY

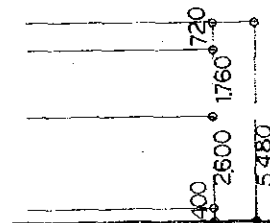
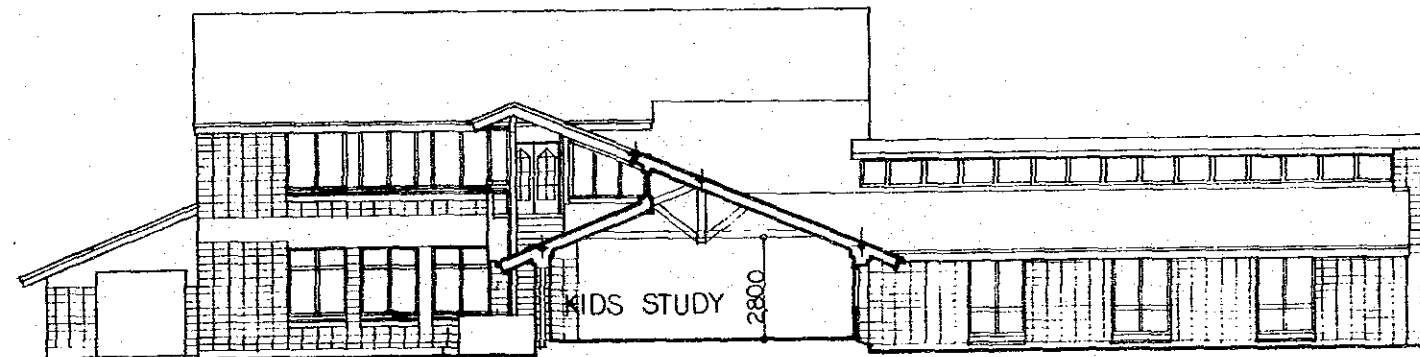


2ND FLOOR PLAN SCALE 1:200

SAVAII LIBRARY

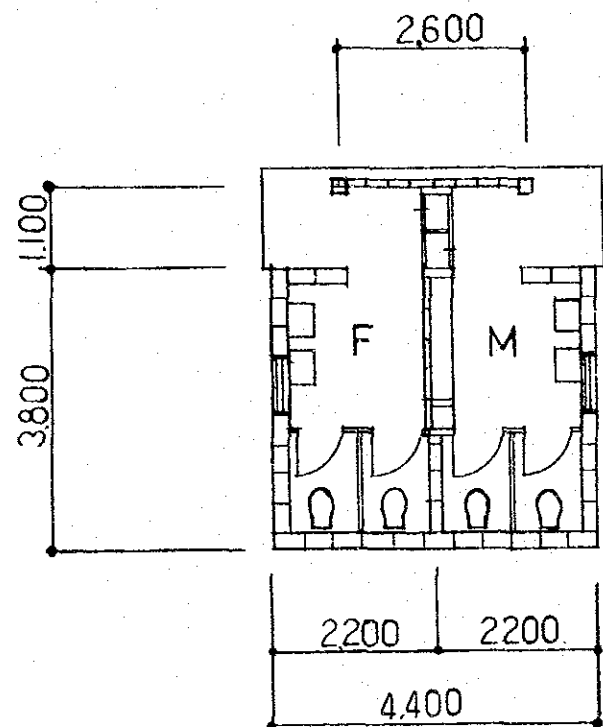


SOUTH ELEVATION & SECTION SCALE 1:200

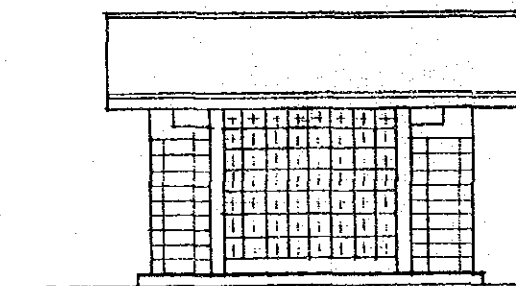


EAST ELEVATION & SECTION SCALE 1:200

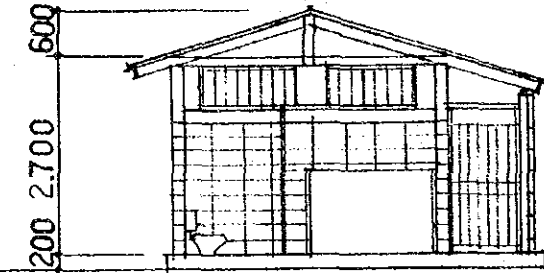
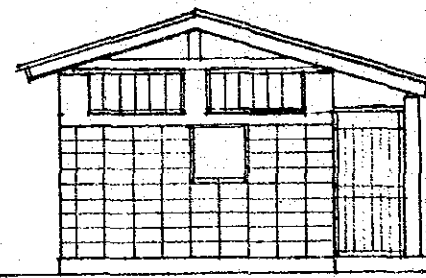
SAVAII LIBRARY



PLAN



ELEVATION



SECTION

SCALE 1 : 100

SAVAII LIBRARY TOILET

6-11 資機材計画

ミニッツで合意した資機材は次のものである。

- a) 発電機 Vaipouli College
容量 65 KVA 空冷式 1基
- b) タイプライター Vaipouli College
手動式 20台
- c) バス Avele College
41人乗 通学用 1台
- d) バス Vaipouli College
41人乗 通学用 1台

6-12 概算建設費及び資機材調達費

(1) 建物工事費		¥272,100,000
内 訳		
1) Vaipouli College 教育センター棟		¥50,200,000
2) Avele College 生物学実験室及び映写教室棟		¥22,200,000
3) Avele College 学生寮		¥38,000,000
4) Savaii Library		¥61,000,000
5) Avele College スポーツフィールド		¥13,700,000
輸 送 費		¥26,800,000
共通仮設費		¥9,800,000
諸 経 費		¥50,400,000
建物工事費計		¥272,100,000
(2) 資機材費		
内 訳		
1) Vaipouli College		
発 電 機 65KVA 1台		¥12,000,000
2) Vaipouli College		
タイプライター 手動式 20台		¥600,000
3) Avele College		
バ ス 41人乗 1台		¥11,000,000
4) Vaipouli College		
バ ス 41人乗 1台		¥11,000,000
資機材費計		¥34,600,000

(3) 設計監理料	¥ 35,500,000
(4) 予備費	¥ 30,700,000
合 計	¥ 372,900,000

註記 上記概算工事費は下記の条件のもとに見積られた。

1) 西サモア政府の協力

1980年10月8日のミニッツに基づき西サモア政府は本事業推進のため、有効な具体的措置を講ずるものとする。

2) 見積時点 1981年2月

3) 為替レート 1WS\$ (ウエスタンサモアドル) = ¥250

6-13 施工関連資料

6-13-1 現地建設の諸事情

西サモアには建設会社として S.P.D.C と T.P.D.C の 2 社が主なもので、S.P.D.C は政府も出資している半官半民の建設会社であり、主として政府関係の土木工事を受注している。

T.P.D.C は建築工事を主とし、民間工事を施工している。他に鉄骨工事を行っている業者もあるが全般に小規模のものである。しかし近年、工場、市場、学校等鉄骨造りもふえており、鉄骨造りの経験を持つ労務者も増加しつつある。

又、前述のような鉄筋コンクリート造り 5 階建の建物も建築されつつあり、施工能力は向上しつつある。

6-13-2 資材調達

このプロジェクトに必要な資材で、現地にて生産されている建築資材は、地業用砕石、コンクリート用骨材、コンクリートブロック、木材（構造材、仕上材、仮設用共）のみである。コンクリートブロック、木材は形状、寸法等多種あり（資料編 34, 35 参照）市場品として多数出回っている。上記以外の資材は輸入によらねばならない。輸入の方法としては次の方法が可能である。

- 1) General Contractor が日本にて調達し輸送する方法。
- 2) General Contractor が直接ニューージーランド、フィジー、オーストラリア等から輸入する方法。
- 3) 政府機関である Public Works Department が輸入業務を委託し調達する方法。
- 4) 現地の Sub-Contractor に輸入業務を委託し調達する方法。

これら 4 通りの方法のうちいずれが適切であるかは資材の仕様、資材コスト、およびその調達経費、調達に要する期間、工期との関係等を考慮し決定されなければならない。

前述の工法の決定によって検討した結果、仕様上の理由から日本での調達が妥当でない資材は電気器具、亜鉛メッキ鉄板、アルミルーバー窓枠等である。

資材について上記いずれの輸入方法をとるかは前述のコスト、経費、調達期間等を考慮し、又、輸入業務の確実さ、および便宜等を考慮して決定される。調査によると 1) の方法はコスト的に不利であり、2) 3) 4) の方法には調達期間に不安定さがある。

6-13-3 輸送事情

日本からの定期便としては、月 1 回月末に横浜を出航し、Guam 島、Fiji 島、Upolu 島（Apia）を經由し、Pago Pago に至る輸送船が就航している。Upolu 島（Apia）から Savaii 島（Salelologa）への輸送は定期便のフェリーボートが 1 日 2 往復している。従って Vaipouli、Salelologa へはトラック輸送が便利だと判断される。

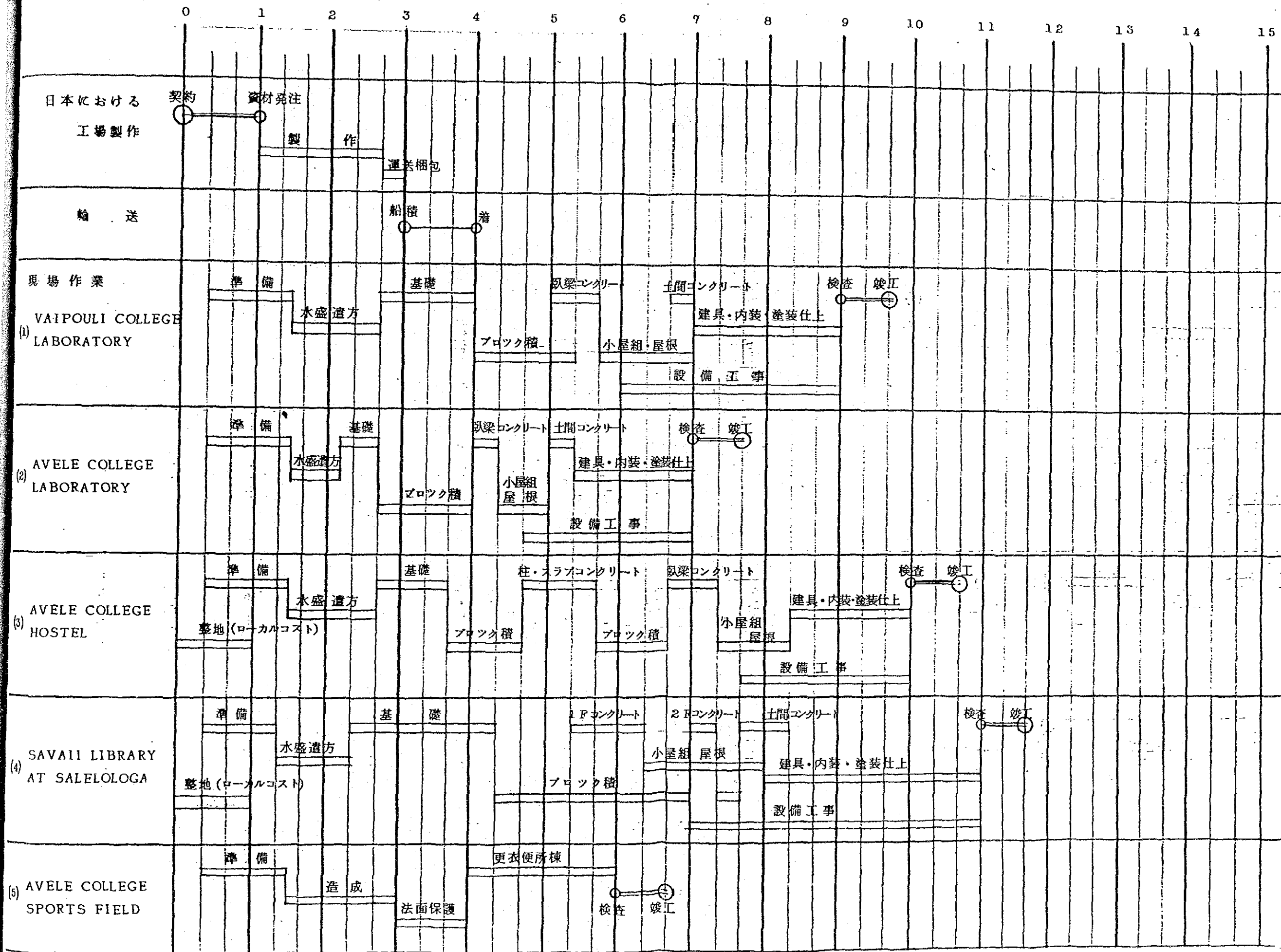
（資料編 36 参照）

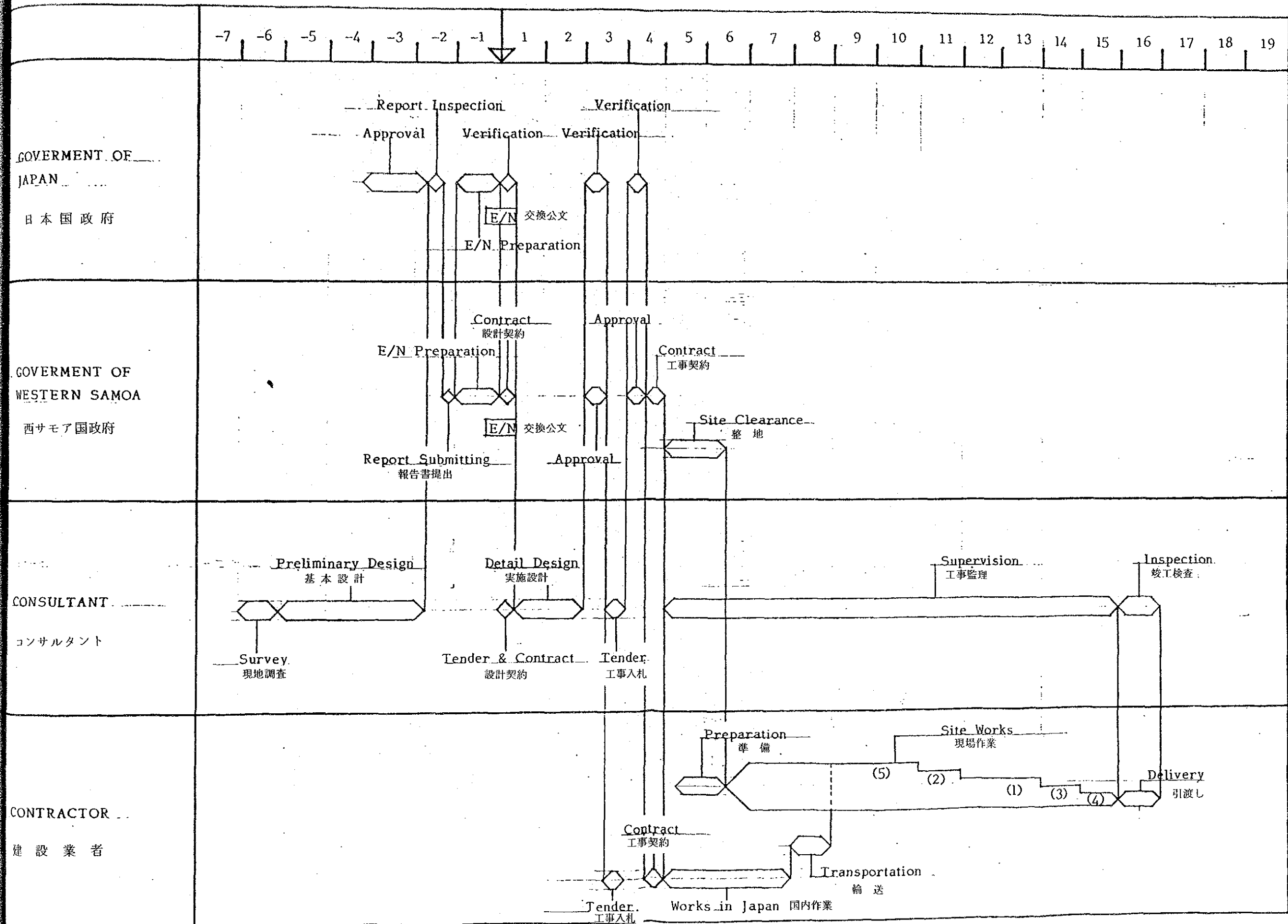
表 6-1 主要資材表

名 称	単 位	数					合 計
		Vaipouli Lab.	Avele Lab.	Avele 学生寮	Savaii 図書館	Avele スポーツフィールド	
コーラル砕石粗骨材	m³	271	140	238	263	41	953
砂	m³	218	111	187	202	29	747
セメント	ton	152	78	132	143	21	526
鉄筋	ton	35	22	35	38	5	136
コンクリートブロック	個	8745	4969	7696	7471	837	29718
亜鉛メッキ鉄板 762 ^{m/m} ×1829 ^{m/m}	枚	1151	492	453	33	66	2195
ハードボード 1000 ^{m/m} ×2000 ^{m/m}	枚	249		260	27	17	553
吸音ボード	m²		239		803		1042
木材 構造材	m³	44	16	29	47	2.6	138.6
“ 造作材	m³	20	3	11	13	1.3	48.3
塗料 油性調合ペイント	Kg	354	192	293	408	57	1304
ビニール系タイル	m²	518	239	541	503		1801
アルミハーバー窓 750×1140	個	87	42	136	154		419
同上 ガラス 750×1145	個	696	336	1088	1232		3352
木製片開フラッシュ戸 900×20	個	25	14	18	14	12	83
“ 両開フラッシュ戸1800×2000	個	1			3		4
アスファルトシングル葺	m²				858		858
クッションフロア	m²				122		122

6-14 工程計画

44-1 施工工程表





第7章 本計画の意義

第 7 章 本計画の意義

独立後まもない西サモアの現在当面している困難は、急速な近代化、西欧化に対する“とまどい”として理解できる。

19世紀20年代から始まったキリスト教布教活動は成功して、キリスト教的西欧文化が定着したが、伝来のポリネシア文化は良く保存され、南太平洋独特の、香りある文化をほこっている。

又、今世紀初頭から半世紀余の外国支配を経たが、西サモアを特徴づける社会制度である、Aiga 制は存続して、社会、経済、政治及び行政の基盤として機能すると同時に、西サモア人の生活全般のよりどころとして、価値の規準、行動の規範の基礎となっている。

一方、1962年、西サモアは独立を達成したが、それにともない、近代的行政機構の整備を急ぐことになり、又一方、近年の急速な交通機関の発達による西欧化の波、それは具体的には、輸入品、移民、観光、援助協力による開発等による、急激な近代化、西欧化の波にさらされることとなった。

伝統的なポリネシヤンとしての生活様式、生活態度の上におそいかかった、この西欧化の波は、現在の西サモアの政治、社会、経済、文化のすべての面で、また社会のレベルから、個人の個人のレベルにわたってまで、あらゆる面で、矛盾と問題を提起している。

しかし、そのなかであって西サモアの将来を考える時に、それはこの二つの体系の調和の上に成り立つものであり、この独特な伝統にもとづいた、西サモア独自の社会 - Samoan Way of Life - でなければならない。というのが大方の国民のコンセンサスである。

西サモアは独立国として、一つの社会の規模としてとらえる時に、16余万の人口は余りにも少なく、内外からの、文明的、経済的なわずかな刺激が、あたかも小さな試験管の水がわずかな焔の火で瞬時にして過熱沸騰するが如く、西サモアの社会に瞬時にして、大きな変化と、ひいては行き過ぎ、偏りをもたらす。この効果の速効性は、長所でもあることはさりながら、政策運用にあたっての考慮すべき重要な点である。

経済的自立を求める手段として、西サモアは現在軽工業化の政策を進めているが、この国の人口を考える時に、又、国の内外の技術水準の格差、市場性、資源等を考える時に、当面は自国の需要をまかなうと云う目的以外は、あまり大きな施策とはなりえない。観光は資源としては西サモアに適したものである。しかし、これを積極的に開発することは、それによる利益以上に大きな不利益をとまらう。すなわち、急速な西欧的ライフスタイルの流入による輸入品の増大、欲求不満、伝統の破壊等である。

人口増加とそれにとまらう雇用の問題は近い将来の大きな問題である。今は移民によりかる

うじてさけられている問題である。この移民は、せっかく養成した貴重な人材の流出を意味する一方で、受入れ国における、労働政策上の、受入れ制限の方向が、自国における雇用機会開発の課題として西サモアの将来に大きくのしかかっている。

以上が、西サモアの当面する状況についての、およその理解である。これらの状況のもとに、国の基本的な政策となっているものは、農業の開発、すなわち地方開発計画（Rural Development Programme）であり、Tupuola 首相がみずから従事して、強力に押し進めている計画である。これは同時に人口の分散政策として、雇用問題の圧力をさける意味をもっている。又一方、教育界においては今回の援助協力計画に直接関係する、中堅マンパワー育成への機構づくりが教育界の当面する最大の課題となっている。

Rural Development Programme はDP III に始まった。他の課題は成否半ばした中で、これは大成功をおさめた。1980年から始まったDP IV においても、この計画はその中心的な課題となっている。この計画の特徴的なことは“Planning from below”、“not centrally imposed planning”と云う実施の方針である。すなわち、村落を単位として、そこにおいて当面する問題を、中央政府の援助のもとに、みずからが開発して、農業生産力を高めていこうとするものである。これにより農村の経済的安定をはかる一方、中央政府による、インフラストラクチャーの整備と文化施設の整備とにより、両者あいまって、農村の生活をふたたび魅力あるものとし、国の基礎として再建していこうとするものである。ここにはAiga 制を中心とする西サモアの伝統を守りながら、経済的自立を求めていく、息の長い、満を持した、態度がうかがえる。

教育界の課題として、国の指導層の育成と基礎教育についての課題はすでに整備の方向にむかい、充足されつつある。いま求められている最大の課題は中堅マンパワーの育成である。現在、実務レベルのこの役割は多数の外国人専門家によってまかなわれている状況である。又一方、前記地方開発計画を初めとする、DP IV における多数の開発計画をになうものとして、雇用の増大をひきおこす企業の発展の推進力として、多数の実務レベルの人材を必要としている。この要求にこたえるために、教育省は、その改革の方向として、農業、軽工業、商業の各分野における職業教育、技能教育のための機構整備をその主要政策としている。

今回の援助協力による本教育開発計画は、以上の二つの重要政策の中に位置づけられるものである。対象となるVaipouli College 及びAvele College は中堅マンパワーの育成を目的として、その質的向上と、量的拡大をはかるために制度の整備と、施設の拡張を求められているものである。公立のSenior Secondary School としては、この他にSamoan College があるが、これは外国大学入学資格試験合格者数の多いことからもうかがえるように、内容もすでに進んでおり、又アカデミックな性格が強く、都市指向型である。一方、前二者は農村出身者が多く、農業教育に力がいれられており、卒業後は村に帰って、そ

の将来をささえていくものが、大多数をしめている。

Savaii Libraryについては、地方開発計画との関連において、これを側面からささえる文化施設として、開発のおくれているSavaii島の一般文化面に、又、教育行政面に大きく寄与するものである。又、特にVaipouli Collegeの向上を側面からささえる機能も大である。

本計画の意義として理解されるものは、だいたい以上の如きものであるが、ここに、この援助協力を成功させるためには、留意すべき若干の問題点が指摘される。それは第6章の2項設計の基本方針に述べた事項に関係する援助協力の方法、態度に関することからである。援助協力はその国の自立を最終目的とするものである。この点について、十分意をもちいて、本計画を推進する必要がある。

以上が、本教育開発計画の意義であるが、これが実施されたあかつきには、西サモアの発展と、我が国との友好を深める上で、かならずや大きな効果を期待できるものと確信する。

